

『聖珠伝説パールシード』プレイ序章

霊薬は千兵を越えよ



サークル<オニ>ワークス

●概要

本書は、「聖珠伝説パールシード」リプレイです。

リプレイ制作は未熟のため、冗長な表記（発言編集の甘さ）、誤記、変なレイアウトがあるかもしれませんが、ご容赦ください。ご指摘いただければ、改版・増刷時に反映したいと思います。

・「聖珠伝説パールシード」について

1992年にツクダホビーから発売されたTRPGで、伏見健二氏、わきあかつぐみ（現：藤浪智之）氏、冒険企画局によりゲームデザインされました。

キャラクターデータ・判定方法もシンプルなうえに、6×6エリアのダンジョンを舞台にしたシナリオが基本となっており、短時間で遊べるように編まれたTRPGです。

・『霊薬は千兵を越えよ』について

似た名のシナリオ集「霊薬は千兵を越えて」が当サークル（サークル〈オニオンワークス〉）から発行されています。そのシナリオの2010年末版の第1話、第3話、第4話を用いて、本リプレイは編まれました。

・本書について

本書には、第1話が収録されています。

第2話、第3話は『百薬は霊薬を越えた』に収録されています。

・プレイヤー発言、キャラクター発言について

各プレイヤーの発言のうち、「」内の発言が主にキャラクターの発言です。〈〉内は判定チャートから導き出された結果です。

●本編

○「パールシード」ってなんだっけ？

都内ホテル地下。男たちが囲むテーブルには、ケーキがわんさか載った大皿、山盛りティーパック、コーヒー、お湯のポット、そしてICレコーダーとキャラクターシートがあった。

【露茶】：今日はパールシードはじめての方って何人くらいいらっしゃるしやいます？

【たいpei】：えらくひっさびさです

【すな】：久々です。先週やったくらい

【露茶】：すなさんがGMやってたのは知ってます（先週同じコンベンションに行ってた）

【ジャック】：露茶さんと同じくらい久しぶりでーす

【露茶】：たぶん、同じくらいだと思います。昨夏やったときからやる機会なければ。

【ジャック】：そうそうあるもんじゃないですね

【露茶】：先週、平塚というところのコンベンションで立ったらしいですよ（その場にいた）

【ジャック】：へえーすごいな。いったい、どの物好きが出したんだろ（棒台詞調）

【露茶】：『ほっぷ・こん』（毎月第一日曜・JR横浜駅近くで主催中！）では絶版ゲームも遊べます！

とそこに、新たなケーキ皿到着。男5人にかかれば、てんこ盛りのケーキなんてあつという間だ。

このケーキ食べ放題カラオケ屋さんは、花○マーケットとかいうテレビ番組でも紹介されたことがあるらしいぞ。なお、2011年3月で食べ放題は終わりました。

【露茶】：何より、僕が遊びたかったから嬉しいです

【Rion】：次の皿いきます？

【たいpei】：このままだとケーキ食べ放題で終わるな

【ジャック】：わかった！ 次のオーダーはキャラクターできてからだ！

一同：それだっ！

それからケーキ取り分けに励む一同。

【すな】：えーと、パールシードはケーキによくあうRPGです

一同（笑）

【すな】：電話で遊べるほどシンプルなRPGにデザインされてますからね。ケーキ食べながらでも大丈夫です。

【ジャック】：たしかに電話でもいけるレベルだし

【すな→GM】：こんな感じのファンタジーなRPGです

表紙ボックスアートを见せる。

【GM】：デーモンさんに、ドラゴンさんです。デーモン族とドラゴン族が戦ってる間で人間族が細々こそこそ生き延びるというファンタジー観の世界です。

- 3 -

い〉……（笑）

【露茶】：やばい、早くも！

【Rion】：いじきたない……

【ジャック】：えーと、6・2は、ふむふむ

【たいぺい】：とりあえずレベルは1ですよ

【GM】：そうそう、あと、年齢は13歳だとなんとなく幸せな気分になれます。

【露茶】：あと性格一つですって、話しかけるから出目忘れちゃったじゃないですか（笑）

【GM】：いかに性格が変わっていくかをみるのが楽しいゲーム〜♪（レベルが上がるごとに性格が変わる可能性があります）

【露茶】：まあまあ、そこが楽しいゲームですよ

【たいぺい】：こういう感じの、性格の設定されるゲームで性格通りロールプレイするやつ見たことない一同（苦笑）

【ジャック】：えーと、キャラクターのレベルを決める。クラスを決めたらGMがシナリオのレベルを発表します。

それにあわせてプレイヤーはクラスごとのコンバットマトリクス（戦闘マトリクス表）とHP（ヒットポイント）をキャラクターシートに書き写します（ルールブック読み上げ）

【露茶】：Rionさん、まあ、マトリクスは気にしないでいいですよ。渡されたペーパーにありますから

【ジャック】：シナリオレベルは……1レベルですか。では、それにあわせてコンバットマトリクスとHPを……

【たいぺい】：だから、クラスを決めないと

【露茶】：順番も関係あったんだ

【Rion】：じゃ、魔法使い

【GM】：はい、これが魔法です。最初から全部いきなり使えます。使おうとすることはできます……使えればなあ、って感じです（魔法リストの載ったペーパーを渡す）

【露茶】：なんか、性格的には戦士っぽいんだけどなあ

【たいぺい】：俺、なんだか〈いじきたな〉くて〈一匹狼肌〉だけど〈思慮深い〉

【露茶】：なんか盗賊っぽいですね

【ジャック】：だね、〈思慮深く〉〈ギャンブル好き〉だけど〈臆病〉

【露茶】：なんか肝心なときに……

【たいぺい】：そんなファイターはどうだ？

【露茶】：〈熱血〉、〈理屈っぽい〉けど〈世間知らず〉だそうです

【ジャック】：またファイターか、って感じだしなあ（去年やったときもファイター）

【露茶】：ファイターしますか？

【たいぺい】：俺がファイターやってもいいけど、やりたいのっていいですよ

【露茶】：それじゃ、この前はファイターやってなかったの、やってみよう

昨年やったときは、ジャックさん：戦士、露茶さん：僧侶の2人パーティだったのです。

【ジャック】：俺は僧侶か盗賊になるんだな。これを2人で分け合うんだな。どっちにしようかなあ、ちょっとマトリクス見せてくださいな

【たいぺい】：決めてからじゃないと見せられないなあ（笑）

【GM】：そういうゲームもありだね（でも見せてる）

【露茶】：決めちゃったので見ます。戦士、戦士

【Rion】：クラスは魔法使いと

【ジャック】：盗賊にしようかな。臆病な盗賊

【たいぺい】：だったら、僧侶で。

【Rion】：名前欄にクラス名書いてた（苦笑）

【ジャック】：そういうのもありだね

【GM】：僧侶という名前の戦士

【露茶】：この前、自分は『アリアンロッド』で『メイジのチョコレートですよ』って。『森永でもいいよね』っていわれたけど『それ職業わからなくなるからダメだよ。メイジはクラスのことだから変えるんならチョコレートのほうだから』って。クラス：森永ってなんだよ？

【Rion】：森永さんを使役する……森永使い？

【GM】：（経済学と収集癖の森永卓郎さんっぽくなるのかと思ってた）

【たいぺい】：数々の森永を……

【Rion】：レベルが1？

【露茶】：標準装備は書いておこう

クラスごとに標準的なアイテムは最初から持っています。たとえば、吟遊詩人なら次の通り。

吟遊詩人の標準装備：楽器、詩集、フレイルかショート・ソード（盗賊用剣同等）、ロープ、派手な礼服、ランタン、マッチ筆記用具、水筒。

【露茶】：パールシードって何歳スタートでしたっけ？

【GM】：別に決まってないよ、特に。ルールブック所収のキャンペーンシナリオだと13歳スタートと決まってるだけで

第一話は成人の儀式に出かけます。13歳の人は成人の儀式に参加で、他の方は付き添いで

【ジャック】：あれ？ 今回もそうなんだ

ルールブック所収のキャンペーンシナリオも13歳のPCの成人の儀式からスタートします。パールシードの世界観をお伝えするリプレイ記事としては、13歳の旅立ちから始めるのがベターなのかなと。

【GM】：あれが伝統なんだろうなあって

【露茶】：伝統の儀式?! 〈世間知らず〉だから 13 歳にしよう
【たいぺい】：バンジージャンプがはじまる……、あの、その儀式って僧侶がてきとうに取り仕切ってもいいんですよね?
【GM】：さあ、村の司祭がねえ
【たいぺい】：村でしょ? 村だったら 1 レベルでも魔法使えれば赴任してるって
【GM】：っと、今回は街スタートですね
【ジャック】：〈ギャンブル好き〉だから 13 歳にしよう
【露茶】：この前のとき（昨年セッション）は、13 歳の儀式はお腹が痛いってことにして 14 歳にしたら、いい加減にしろって突っ込まれたなあ
一同：笑
【Rion】：みんな 13 歳?
【露茶】：もうちょっと歳いってもいいや
【Rion】：性格的に儀式じゃないと行く理由ないかな
【露茶】：じゃ、15 + 1 D 6 くらいにするか……20 歳になった
【たいぺい】：そうね、13 歳で〈意地汚い〉のもどうね
【ジャック】：育ちによるんじゃない?
【露茶】：初期キャラクターだからもうちょっと若くていいか
【たいぺい】：僧侶になるような育ちをしていて〈意地汚い〉のか?
【ジャック】：そういう教えとしか思えないなあ
【露茶】：東南アジアみたいな感じで貰い物をして生きていけないといけないとか
【たいぺい】：じゃあ、それじゃ、14 歳にして去年やっていて、13 歳でやる奴らを「あー」って目で見るともいいな
【Rion】：今のうちに恩を売っておくとかね
【露茶】：つきそいで
【ジャック】：でもさあ、こんなふうに話していて 13 歳一人もいなくなったらどうすんだよ?
一同：笑
【GM】：（シナリオを）書き換えます、インタラプトで
【ジャック】：じゃ、誰か一人 13 歳にして、それにあわせてみんな（笑）
【露茶】：初期キャラクターそんな年配でも変だし
【たいぺい】：じゃ、12 + 1 D 6 かな……あつ、14 になった
【ジャック】：17
【たいぺい】：なんか、1 人しか 13 歳いないんだけど
【Rion】：えっ?
【ジャック】：主人公だあ
【露茶】：リーダーだあ

【Rion】：えーと、性格が〈クール〉で〈現実主義者〉だけど〈格好つけ〉

PC リストを記入してもらうため、ペーパーまわす。

【たいぺい】：名前どうしようかな
【GM】：名前と性別と年齢と性格……、書いてください
【露茶】：名前決まってないよ、まだ
【ジャック】：いいや、やっぱり 13 に戻す
【露茶】：若返った
【たいぺい】：名前どうしようかなあ
【GM】：チーズ・ケーキ
【露茶】：タマネギ・スナガとか（そりゃ、GM の芸名や）
【Rion】：なんかアール・グレイ伯爵
【たいぺい】：伯爵だっけ?
【露茶】：パールシードはふつうのファンタジーでしたっけ?
【GM】：ま、だいたい。別に東方的な名前でもかまわんですな
【ジャック】：まだ名前決めてない
【GM】：さて、舞台はダンジョンで一す

ダンジョンシート配布。基本的に各 PL ごとに 1 シナリオにつき 1 枚ずつ配られます。ダンジョンのマッピング以外にもいろいろ書けるので、最近の TRPG でいうところのレコードシートに相当しそうですが、冒険の思い出帖といった狙いのほうが強いです。

【ジャック】：お約束だけど、戦災孤児の一見男の子な女の子かな
【GM】：30 年前にデーモン戦争という戦争がありまして、戦災孤児って設定はできますね
【たいぺい】：でもそれだと見た目は 13 歳だけ……いくつ?（笑）
【露茶】：まあ、いいんじゃないでしょうか
【ジャック】：大丈夫。ほかに戦争があったに違いないんだ
一同：ほお～
【ジャック】：村同士の諍いとか
【露茶】：たいへんだ、隣の村が槍騎兵団を創設したらしいぞって、村すごいな
【たいぺい】：それさあ、要するに村の若者たちが竹槍を作っただけじゃないのかな（笑）
【露茶】：っと、HP 書いてなかった
【Rion】：魔法使って死ぬのはありますか

この聖珠伝説パールシードでは、HP を消費して魔法を使います。ルールによれば、0 になるような使い方はできません（一部魔法除く）。

【Rion】：それで、最後の HP を使って治癒魔法を自

分について

【露茶】：このゲーム、回復魔法、けっこう赤字になるんで気をつけてくださいね。効果表見るとわかるんですけど、序盤はけっこう赤字ですから。序盤はダメージの移し替えて感じのほうが——『エンドブレイカー！』みたいに

『エンドブレイカー！RPG』基本ルールはワンコイン 500 円で好評発売中ですよ！

【Rion】：でも、計算してみるととんとんくらいですよ

【GM】：騙されはじめてる？

【Rion】：5 以上出ればもっと回復しますよ（魔法の判定はサイコロ 1 個です）

【たいぺい】：なんかあれだね、モンハンでモンスターの横に行って回復役飲んだらそのあとでまた殴られちゃう感じ。あれ？ ちょこっと回復したかな

【GM】：〈故意にHPが0になるような使い方はできません〉って書いてありますね。僧侶の「最後の奇跡」以外は

【ジャック】：「最後の奇跡」は、残ったHPすべて！

【Rion】：それはできないって書いてあったらすごい矛盾が発生しちゃうね（笑）

【たいぺい】：それ、HP 全て使って 2 ゴロを振ったら〈あなたはまだ死んではいけません願いは叶わず、

あなたはHP 1 の状態で生き残ってしまう〉だね。これ、HP 残り 1 のときっていうか、一か八かで使うから、これが出たら終わるよね（苦笑）

【GM】：フレーバー、ですね。っと、これでだいたいキャラクターはできてきた気になってきましたね。

【GM】：では第一話は『鼠退治』というタイトルになっています

【Rion】：シナリオネーム：鼠……

【ジャック】：子僧（笑）

【GM】：『伝承 1：鼠退治』。三話構成のキャンペーンになっています。レベルは 1 です

【たいぺい】：ダンジョンシートって一人ずつ書いてかなきゃいけないんだっけ？

【GM】：基本はそうですね

【露茶】：みんな責任もって書けって

【GM】：めんどくさければいいですよ

PC 名もようやく決まりはじめ、PC リストに書きはじめる一行。

●マップ内の各マスの呼称について

東西南北に関係なく、各マス内は右の呼称名によって、呼ばれている。



■ 伝承 1 : 鼠退治 ■

●ここはどこ？

【GM】：タルタニアって世界でございます。スタートはこのホープ。三十年前のデーモン戦争の英雄ガイっていう戦士さんが領主をやってる一万人くらいの都市ですね

【たいぺい】：ホープ・レス？

【GM】：いえ、あります。

で、その都市の端っこのほうの集落があなたがたのスタート地点です

雪が溶け、そろそろ草花も芽吹いてくる頃に春祭りがございます。

例年待ち遠しい春祭りですが、今年は特に待ち遠しかったです。今年は 13 歳 P C の成人の儀式だからです

だが、祭を前にちょっと嫌な噂を耳にします。ここ数ヶ月前から儀式を行う裏山の洞窟にネズミさんが出没するそうです。その洞窟にある女神様の祭壇に参詣することが儀式的肝だっちゅうのに嫌な話です。

さらに、狩人のフェレンさんがいうには、裏山の木々の荒れ方から見て、めっちゃでかいネズミ——3 レベルくらいも混ざっているようです。

君たちは祭当日、巨大ネズミの護衛ということで同行を許された 13 歳以外の P C といっしょに、洞窟へ向かうのでした

【露茶】：巨大ネズミを守る護衛はしないなあ（笑）

【GM】：巨大ネズミ対策の護衛として……同行許されて洞窟へ向かうという話でございます。

で、（ダンジョン・洞窟の）スタート地点に向かう前に、領主ガイさんのネーラレインっていう、まあ、そこそこな男が（苦笑）

【ジャック】：そこそこな男（苦笑）

【たいぺい】：どんなだよ？（苦笑）

【GM】：中間管理職っぽい白髪交じりの三十代後半が you たちの装備を点検後、一人当たり薬草 3 回分ずつ手渡ししてくれます

【Rion】：薬物？

【GM】：これをチューって手首に打つ（嘘）と H P がサイコロ 1 個分回復します

【露茶】：D 6 ？ わかりました

【たいぺい】：えー、あの一、その焚いて鼻からすーっと吸うんじゃないの？ あと葉っぱだから（葉巻風に）巻いて吸うとか？

【露茶】：食べるモノではないとか？

【ジャック】：回復した気になる？

【GM】：儀式を受けるデスロックさんとネームレスさんにですね

【ジャック】：まだ名前決まってないだけでって

【GM】：名前が刻まれた小石を渡してくれます

【ジャック】：ん？ ラズロックって書いてあるよ

【たいぺい】：デスロックじゃないじゃん！

【Rion】：デスロックいないと思ったら違うじゃねえすか（笑）

【GM】：失礼いたしました

【たいぺい】：あー、それも兼ねて、キャラクター紹介とプレイヤー紹介やってきましょうや

【Rion】：そうですね

●名乗り

【GM】：じゃあ、今日の冒険者紹介フェイズとなります。番号順～

【ジャック】：番号ついてないぞ

【露茶】：ついておりませんが

【ジャック】：じゃ、P L の年齢順

【たいぺい】：それは高い方？ 低いほう？

【露茶】：降順ですか。高い方からじゃないですか

【ジャック】：高い方？ 誰だろう……昭和 50 年 8 月

【たいぺい】：昭和 49 年……

えーと、P L のハンドルネームはたいぺいです。キャラクター名はラスト・プーチン、僧侶、14 歳、オス（下イラスト）

【露茶】：14 歳？ 40 歳くらいのイメージが

【たいぺい→プーチン】：去年、成人の儀式をやってこれでもうやんなくていいなあ、と思ったら、僧侶なんで今年お手伝いさせていただきまーす。はい、司祭から『お前侍祭になったんだから正式に手伝え』って言われて。

ちなみに〈意地汚い〉けど〈一匹狼肌〉で実は〈思慮深い〉らしいぞ

【GM】：よろしくお願いします。

って、次は昭和 50 年 6 月生まれだから次は私か？



【ジャック】：プレイヤー 50 年 8 月生まれです。ハンドルネームは……定期的に変えているので、



ジャック（仮）ということで。キャラクターのほう
は……まだ

【たいぺい】：もうネームレスでいいじゃん

【ジャック】：ルクレチアでいいや（上イラスト）。

クラス盗賊 13 歳。えーと女。〈思慮深〉くて〈ギャンブル好き〉だけど〈臆病〉。ギャンブルやりたい、でも負けるのは怖い

【プーチン】：まあ…… 〈臆病〉か

【ジャック→ルクレチア】：なわけで、たぶん戦災孤児。きつとどこかで戦争やってたんですねー、ドラゴン同士の戦争とかさ

【GM】：東北からデーモン族が、北西からドラゴン族が攻め込んできてますね

【ルクレチア】：父親がドラゴンで母親がデーモンなんです（笑）

【GM】：却下

【たいぺい】：はいはい、ワロスワロス

【ルクレチア】：以上

一同：お願いします

【ルクレチア】：お願いしまーす（裏声）

【プーチン】：キモイから

【ルクレチア】：お願いするのにな

【プーチン】：縊り殺していい？（笑）

【GM】：どうぞどうぞ。次はどっち？

【露茶】：59 年

【Rion】：64、じゃなかった 62 年

【露茶】：いま、10 年くらい空きましたね（笑）。

中身はロシアの露に、お茶と書いて露茶（ロシアンティ）という名前です。だいたい露茶（ろちゃ）とか呼ばれます。

キャラクターはマリカです（右上イラスト）

【Rion】：まりんか？

【ジャック】：男性？



【露茶】：女性で 16 歳です。やべえ、けっこう年上の気配がする

【Rion】：おねえさんキャラ

【露茶→マリカ】：今回はそんなわけで頼まれたんですが、どうしてそうなった……。ええと、ガイさん、英雄がいたそうですね。そんなとこだったの、尚武の雰囲気満ちた街ということで剣道場なんだろうと思うんですよ。そんな感じの家でやってたんですが、あの兄貴、道場主の子供で長男がいたんですが、そいつをボコボコにしましてまして『お前ちょっとさ、小娘が跡取り息子ボコボコにっちゃうようじゃ困るんだよ、外聞上。だからここからしばらくいなくなれよ』

っていわれて、そのあと、この護衛話を頼まれました

【プーチン】：むしろ長男ががんばれよ

【マリカ】：世間体はそんな感じです。あちらもががんばってはいるみたいです。で、性格は〈熱血〉で〈理屈っぽ〉くて〈世間知らず〉です。……迷惑だな

【プーチン】：ほんとだね（笑）

【マリカ】：だから道場の訓練でも手加減しなかったんですね。「なぜって、兄上に私が勝つのは私が強いからでしょう」とか言い出しちゃうわけで。

【プーチン】：「これだから世間知らずなガキは」

【マリカ】：「おとなしく偉いところへ嫁に行くんだよっ」とかいわれたんで家を出ました。というわけで、今は大ネズミの護衛です。

【Rion】：えっ？

【マリカ】：っと、大ネズミ「退治」の護衛です（笑）。では、よろしくお願いします。

【GM】：では、リーダー。

【Rion】：はい、リーダー、中の人……。

【GM】：おっ、リーダーなんだ。

【プーチン】：じゃ、リーダー決まりと（笑）

【Rion→ラズロック】：ハンドルネームがRionで、かぶっているのがラズロック、魔法使い、13歳のオスです。

【GM】：男女が2人2人、おおっ。

【マリーカ】：たぶん、そういう調整が入ったんだと思います



【ラズロック】：性格が〈クール〉で〈現実主義〉だけど〈格好つけ〉。厨二病ですね。

「わざわざこんな儀式やらなくてもいいのに」とかいいながら、実は内心ちょっと喜んでいる、と（笑）。「俺の時代来たか」みたいな。

【GM】：きますよ（ぼそっと）

【マリーカ】：というところで第一部終了ですね（笑）

【GM】：えーと、三十代後半のネーラレインさんです。

【マリーカ】：さっきの。

【GM】：中間管理職として日夜胃が痛いそうです。でも、馬に乗って騎士の真似事して最終話に出てくるかもしれない。ばからんばからん。

【ルクレチア】：落馬、死亡（笑）

●洞窟侵入

【GM】：で、「洞窟はまっすぐ行けば祭壇の入口に到着します」とネーラレインは勝手に解説しています。祭壇の上にこの石を置いてきてくれれば儀式は終了です。もちろん誰も監視して——って、今回は監視者いるんだなあ。プーチンさんが監督者として同行するんで。

「でも、ま、ごまかしはしないようにね、よろしく」

【マリーカ】：あれ、私は何をすれば？

【GM】：「でも、ダメだと思ったら無理せず帰ってきてください」

「もともと自然の洞窟の一角に祭壇を設けただけです。年に1回のこの儀式のほかにあんまり人が立ち入らない場所です。だけどネズミが住み着いちゃった。ほかにネズミ以外が住み着いちゃったかもしれないんで気をつけてね」と。鼠が住み着いたんじゃないかという噂ですが、誰も確認しにいったません。

【マリーカ】：きっと領主様がネズミが居着いた、とかいってるわけですね。

【GM】：（プーチンに）去年覗いたときはあやしいやつは特にいませんでした。

【プーチン】：まず、今、儀式をやってる最中でいいんですか？

【GM】：これから入るところ

【プーチン】：儀式やる前に掃除しろとかじゃないんですね？

【GM】：そういうことか……、儀式のついでですね

【マリーカ】：儀式がメイン

【プーチン】：そこにネズミがいるかもしれないから

【ラズロック】：なんとかすると。

【GM】：そうだなあ。では、16歳の猛者マリーカさんに向かって「ネズミがいるらしいから退治してくれると狩人が喜ぶかもねえ」みたいな視線を送っておきます。野山を暴れるネズミに狩人さんが倒されちゃったくらいなので。

【マリーカ】：「それくらいならできるかもね」

【GM】：スタート地点はF3になります。ダンジョンは左上起点で、横に123456、縦にABCDE Fとなっています。（マップが次の頁にあります）

【マリーカ】：あっ、ダンジョンに入ってる。

【GM】：P Cが2人並んで戦えるくらいの広さですね、で、道は、左壁と右壁があって奥に繋がってます。地面とか壁とかは自然窟って感じで土がぼさぼさしています。岩って感じより土って感じの洞窟ですね。この上に高速道路を敷いたらべちゃっと潰れちゃいそうな感じの洞窟です。

【マリーカ】：さて、じゃ、2人いるのかな、儀式の主役。

【GM】：隊列～、ファジー？ しっかり決める？

【プーチン】：ファジーにすると魔法使いが前にいてネズミが出てきてとんでもないことになる

【ルクレチア】：で、隊列をしっかり決めて魔法使いを後ろにすると後ろから。

【プーチン】：だから真ん中に置かないといけない。

【ラズロック】：リンケージ？
 【マリーカ】：そんな概念みたいなもんですね
 【ルクレチア】：火力でつかいののは真ん中置かないとね
 【プーチン】：ちなみに、みんなHPは？ ……15
 【ルクレチア】：15
 【マリーカ】：20
 【ラズロック】：10
 【マリーカ】：10の人真ん中ですね、多分。
 【プーチン】：そうね、真ん中で一。あのう、この洞窟にいきなり罠があったら「おいっ！」って感じだよな
 【GM】：去年はなかったですね
 【マリーカ】：made in Hope とか書いてあるわけですね。というわけで、私は前と。
 【プーチン】：前二人、真ん中、後ろ一人かな。
 【GM】：このゲームは僧侶も殴れますね
 【ルクレチア】：古いゲーム（笑）
 【プーチン】：でも、俺、見届け人だから後ろにいないと見れない。
 【マリーカ】：あっ、そっか。
 【ルクレチア】：「女二人が先頭ですってよー」
 【プーチン】：レディファーストですよ
 【GM】：ふむ、2／1／1と。
 【プーチン】：そして、レディファーストは、女を盾に使うためにうまれたもの。
 【マリーカ】：「それが向き不向きだというのなら仕方ないのかもしれませんがね」くっくっく。相手も攻撃しにくくなるかもしれませんがね、相手が人間だったらね。
 【GM】：では隊列が決まりました。おめでとうございます。
 【マリーカ】：というわけで真ん中に
 【ラズロック】：柔らかいの！？
 【GM】：灯りはテキトウでいいよ。
 【マリーカ】：ではランタン持ってます。松明のほうがよさそうだけれど、（標準装備で）ランタン持ってるので。そちらが持ったほうがいいのかもありませんけど。
 【GM】：初期装備（標準装備）にみんなだいたい灯りは入ってますね～。
 【ルクレチア】：では、マッチとランタンを持っているので。
 【マリーカ】：うーん、松明は持ってないのか。

ランタンだと割れて使えなくなるけれど、松明だと壊れにくいと警戒しているようです。

【ルクレチア】：たぶん、いつでも持ってるんだぜ。
 標準装備
 【GM】：シナリオが終われば回復しますね。
 【ルクレチア】：むしろランタンが壊れる過去を演出。
 【マリーカ】：じゃ、ランタンが壊れた過去があるので松明を持ってきたということ。
 【GM】：では「進む／退く／上を見る」などの行動が可能です。「先を見に行く」なんてのもありますかね。
 【マリーカ】：進むじゃないかな。オブジェクトもないしなあ。
 【プーチン】：じゃあ、早速進もう
 【GM】：ではE3へ。

●分かれ道

【GM】：E3は、奥と右に道が分かれております。でもって、右から水の流れる音が聞こえてきます。しゃ～、ぴちょぴちょ。
 【プーチン】：ひゃっは一、水だっ！
 【マリーカ】：それ、流れる音じゃないですよ（笑）

シナリオ名：裏山の祭壇 レベル：1

A

B

C

D

E

F

1

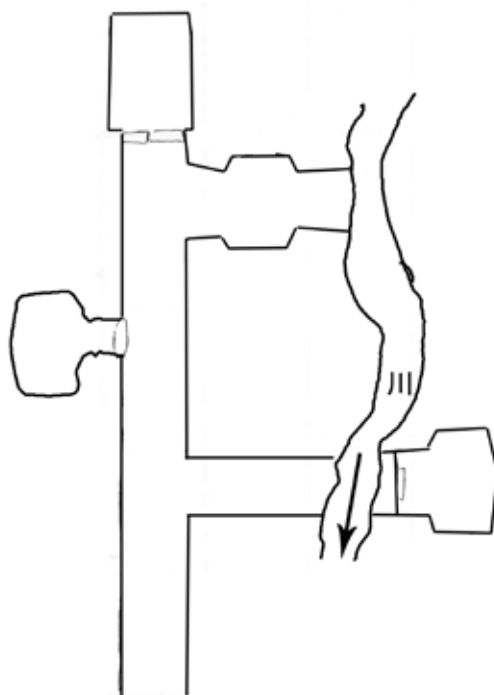
2

3

4

5

6



【GM】：じゃ、水のほうに行く？

【マリーカ】：隣と後ろに「別に私は行く先は決めないから」といっておく。

【プーチン】：あれ？ 祭壇は真っ直ぐ奥なんですよ？

【ルクレチア】：そう言ってた。じゃ、二手に分かれましょう（笑）

【ラズロック】：下策すぎる（笑）

【プーチン】：じゃそういうことなら「祭壇、奥」と指さそう（笑）。気怠そうにいう。

【マリーカ】：「さっさと儀式すませろや」って？（笑）

【ルクレチア】：じゃ、とっとと進ませましょう。リーダー、それでOK？

【ラズロック】：いいんじゃないでしょうか。個人的には右の穴がどうなってるのかみたいなんですけどね

【ルクレチア】：そうになると、リーダーと気怠そうな人との戦いになる

【マリーカ】：リーダーの「寄り道したい」と「さっさと行け」

【プーチン】：ちなみに俺は去年まっすぐ行ってさっさと終わらせて帰ってきたんで知りません（笑）

【マリーカ】：去年は横穴あったのかな？

【プーチン】：まっすぐ行って帰ってきたただだよ

【マリーカ】：あったとしても視界の外だったか認識してなかったと（笑）。視界の幅は前方15°くらい。

【プーチン】：そうそう。あの一、さっさと終わらせたいじゃん。

【ルクレチア】：前のほうは前のほうで女二人で「どっちでもいいから早く決めてほしいよねー」（笑）

【マリーカ】：「あなたは他人事じゃないでしょう」（ルクレチアは13歳で儀式の当事者）

【ルクレチア】：「バックアタックされたらどうすんのよ」

【マリーカ】：あーそうか、〈臆病〉だし。早くも側面攻撃を警戒している〈臆病〉。

【ルクレチア】：〈臆病〉者としては……早く帰りましょう（笑）

【マリーカ】：（笑）分かれてる。

【GM】：じゃあ、二手に分かれるってことで。

【ラズロック】：あれ？

【マリーカ】：パーティ分裂しちゃったぞー。

【GM】：疑心組はまっすぐ行くと。

【プーチン】：そうすると、俺が三つ目に分かれて、

【マリーカ】：プーチンさんはここで待ってる？

【プーチン】：で、「全員バラバラで帰ってきませんでした」と報告。「ううう、奴らは……」って。で、帰ってきたら「おお、生きて帰ってきたか、よかったよかった」っていう役。

【ルクレチア】：じゃ、それでいいか。

【ラズロック】：それは却下して……、うーん、穴がどうなってるかだけはみたいなあ。行かなくても。途中で崩れているとかだといいんだけどなあ。

【GM】：灯りがあるからぼちぼち見えるか。では、一般行為判定の練習がてら……、汎用行動マトリクス表を振ってみるかな。ま、7が出るといい感じ。レベルにサイコロ1個の出目を足すと判定ができます。

灯りを点けてる人は+1の修正を欲しければあげる。いらなきゃいいや。

【マリーカ】：欲しいですって

【プーチン】：ほしいほしいほしい

【ラズロック】：でやー。やった成功だ

【ルクレチア】：最低だ……〈大失敗で事態は悪化、やらなければよかった〉

【GM】：えーと灯り持っているんですっけ？ じゃあば、ルクレチアさんのランタンの隙間に虫が飛び込んできた。いい臭いがこんがりあがる。

【ルクレチア】：燃えたあっ！？「きゃー」、虫ごと地面に叩きつけてランタン壊します

【マリーカ】：「うるさいわねえ」

【ルクレチア】：「どうしましょ。壊しちゃった」

【プーチン】：後ろから、「帰ったらそれ、実費ね」（笑）

【マリーカ】：で、達成値8の人は何か見えたりしますか？

【GM】：しばらく先にちっちゃな川があるような感じですね。川の流れっぱいのがみえますな。あとギョロリって感じの眼ん玉が見えたような、見えなかったような。

【マリーカ】：ギョロリ？

【GM】：気のせいだよ。

【プーチン】：それはE4の景色？

【GM】：E5のあたりかなー。

【プーチン】：そこまで見えただ、ふーん。

【マリーカ】：「何かいそうな気配がしたのは確かだけど。で、どうするの？」二人に訊きますよ。

【プーチン】：今いるのがE3で、道が真っ直ぐ続いている。

【マリーカ】：何か見えただのなら行ってみたいという人がいる

【ルクレチア】：その行ってみたいのがリーダー。

【ラズロック】：リーダー的にはここは決を採るべきかな（笑）。決めて統一するのがリーダーの役目なんで……。

【GM】：議長？

【ラズロック】：そう。

【プーチン】：で、（パーティ構成人数は）偶数なので割れて決まらないと。

【マリーカ】：多数決はこの人数だと得策じゃないわ。

【ラズロック】：リーダーが決めるので、それ以外の人で採決と。

【マリーカ】：あっ、自分は放棄したっ。ここで「どっちでもいいや」がいるとたいへんなことになる。

【ラズロック】：そうなるとリーダーとして「意見を言って」と突っ込む。

【ルクレチア】：臨機応変？

【ラズロック】：〈現実主義者〉！

【ルクレチア】：えーと〈ギャンブル好き〉。ダイスで決めましょう。

【プーチン】：それは〈思慮深い〉ので(?)「さっさと決めて終わらせよう」

【ルクレチア】：どっちでもいいからダイスで決めよう。じゃあ、「わき道でいいんじゃない」ダイスがそう言ってる(笑)。

【マリーカ】：「どっちでもいいからはやくしてよー」(睨)

【ルクレチア】：じゃ〈臆病〉だから「やっぱりこっち」(笑)

【ラズロック】：睨まれると意見をすぐ変えると(笑)。じゃあ、後ろを警戒しつつ前進ということ。

●腰ほどの穴

【GM】：D3へようこそ。道は真っ直ぐつながってまして……左壁にちょっと穴が♪

【ルクレチア】：ガンジーの館にようこそ(ゲームブック：ファイティングファンタジー『バルサスの要塞』でしたっけ?)

【GM】：左壁に腰くらいの高さまでのちょっとした穴が空いてます。膝をついて1列に並んでハイハイしていけば入れそうです

【マリーカ】：危険すぎる

【プーチン】：提案がある。この辺に転がってる岩で埋めようぜ。

【GM】：で、床には足跡がわらわらと。

【プーチン】：どんな？

【GM】：えーと、僧侶さんだから頭脳行動+1で判定どうぞ。

【プーチン】：出目6+レベル1+修正1で8。

【GM】：どうやらふつうのネズミの足跡のようだ。最近のものですわね。

【プーチン】：まさに埋めようぜ(笑)

【ラズロック】：賛成ー

【GM】：そっか8が出たのか。では、ボーナスとして、おっきくて重い二足生物の足跡が見つかります。C3につながってますな。えーと、E3から。うーん、何度も往復したような感じではあります。そこそこ以前についた足跡ですね。最近ではない。

【マリーカ】：この穴塞いでみたほうが。塞いでしまっても、後から行こうと思えば(どかして)行けるし。

【GM】：では、マリーカさんがそこですーっと押さえてるということ。

【マリーカ】：えーっ?!(笑)

【ラズロック】：文字通り『壁』

【GM】：「私にかまわず行けっ」ってやつですな(笑)

【プーチン】：それはいいから、そこにあるでかい石で塞いじゃいな

【マリーカ】：って、やってないから。

【GM】：サイコロ1個振って、1が出たら、塞げるくらいのでかい石があります。

【マリーカ】：けっこう確率少ないな!

【プーチン】：まあ、そんなもんだろ。ない。

【GM】：ふう、よかった

【マリーカ】：つまり、ほっといて、先に行くか。ということになるかな、うん。

【GM】：先行っちゃうの、寂しいなあ。

【マリーカ】：それを決めるのはあっち(リーダー)だけだね

【プーチン】：まー、じゃ、とりあえずさあ、ランタンで照らしてみると?

【GM】：穴の先は狭くて光が届ききらないようで、暗くてようわかりません。

【ラズロック】：光が届く範囲にはなにもない?

【GM】：はい、ネズミの足跡がつながっているくらいですね。

【マリーカ】：「さっさと終わらせちゃったらどうかしら」とか言い出すぞー。やばい、言ってること同じだ。儀式さっさとやっちまえてこと。

【プーチン】：出てきたらぶち当たればいいんだろ?

【GM】：では、D2(小穴の奥)ということでしょうか?

【マリーカ】：いや、ん?

【ラズロック】：今、違うところに行かされる場所だった? C3ですね

【GM】：気づいてもらえた……よかった、ふう。

●大扉

【GM】：ではC3と……資料はどこだっけなー。左壁でございます。奥壁には両開きの扉がございまして、右に道があります。で、大扉にはですなあ、こーんな感じの紋章が彫り込まれています(ルールブック背表紙の紋章を見せる。女神、デーモン族、ドラゴン族が三すくみのように描かれている)

【ラズロック】：いかにも儀式調

【GM】：女神様に、ドラゴン族にデーモン族。彫り込まれてますなあ。

【プーチン】：で、すべての希望を捨てよ、とか。

【GM】：あと、奥壁は真っ白な大理石って感じの扉

と壁。灯りもあるし、ところどころに焦げ目がついているのが見えるけれど、ま、きっと気のせい。

【プーチン】：焦げ目？

【マリーカ】：去年はあったのかな

【GM】：16歳のマリーカさんが来たときにはまだなかったですね

【マリーカ】：あれ？ 来たことあるの？

【GM】：成人の儀をしてないなら来てないけれど。道場は別の集落でもいいし。

【マリーカ】：してなくてもいいかなー。

【GM】：別の集落で儀式をやっているでもいいし。ま、そのへんはどーじょー。

【プーチン】：では、はじめて来た奴らに向かって「なに、この焦げてるの」(笑)

【ラズロック】：はじめて来る人に訊くんだ

【GM】：焦げ目について何か知りたければ頭脳行動でどうぞ。修正0かな、っと、レベルによる修正は入ります。

【プーチン】：〈2：これ以上ないほどの大失敗だ。事態は良くなるどころかひどくなる一方だ〉

【GM】：(って、汎用表ですな。まあ、大失敗なのはどの表もいっしょですが) 好きなことでうちあげていいよ

【プーチン】：「まさか、これはドラゴン族のプレスで！」(笑)

【ルクレチア】：〈判った！そう思ったが、物音に氣を取られて今思いついた事を忘れてしまう。なんてことだ！〉なんてことだ、今のドラゴン族のプレス発言でええ？ なに言おうと思ったか忘れちゃったー。

【プーチン】：最悪だっ(笑)

【マリーカ】：「どうでもいいからさっさと開けちゃえば」(笑) このままだと開けちゃうよ

【GM】：達成値6が出せた人は、先程ネズミ穴辺りで見た重そうな足跡がこの辺まで続いてきているのに気づきます。この扉の前でいろいろアクションしていた感じで、足跡がぐちゃぐちゃになっています。

【ルクレチア】：でも、忘れたんだよね

【GM】：まあ、足跡は気づいていいです

【ラズロック】：開けようとしてがんばっていたのかな

【プーチン】：でプレスを吐いたと

【マリーカ】：開かねえ、ぼわっ。出力が足りねえ

【ラズロック】：これは普通に開けられる？ 両開きの扉ですよ？

【GM】：まあ、両開きの扉です。プーチンさんは去年扉に触ったら何か起きたことを思い出す。

【ラズロック】：何が起きたかはおぼえてないかも？(笑)

【プーチン】：うーん、あの一、洞窟を出たときになんか変なガジェットで目の前をちゃらちゃらってや

られたから(M I Bのガジェット?)。それか、喋ると全身に痛みが走るギアス(呪い)がかけられたか、やだやだ。

【マリーカ】：全身に爪楊枝が刺さったような痛みが。

【GM】：ふつうに開ける？

【ラズロック】：まあ、ふつうに……今までの行動的には、とりあえず真っ直ぐ儀式はさっさと終わらせてという。

【GM】：ふむ。君が触ると真っ白な暖かい光が扉じゅうに浮かび上がりまして最後に扉が開いていきます。

【マリーカ】：ぴかどーん

【GM】：ぴかどんか……。えっと、で、B2という行き止まりの空間につながってます。

●祭壇で相談

【GM】：って、B2は嘘だ。B3だ。

【マリーカ】：ディメンションジャンプしたっ。

【GM】：で、奥には女神の祭壇がありまして周囲の壁には歴史が彫り込まれています。女神様の石像は平和を祈るように手を組んでます。足元の祭壇にはたくさん丸い小石が置かれてます。

【ラズロック】：その祭壇に石をぽーいっと。

【GM】：ぽいと置きました。

【ラズロック】：横道っぽいのが3つもあるのがなー。

【プーチン】：2人とも置いたよね。

【ルクレチア】：じゃ、私も置きます。

【プーチン】：「はい、儀式終了。帰るよー」

【マリーカ】：引率の人だから。「帰るよー」

【ラズロック】：ネズミはどうするんですか？

【プーチン】：いたら、だよ。

【ラズロック】：詳しくは調べないつもりだったんだ。

【マリーカ】：面倒なことは追加料金

【プーチン】：そうそう。というか、いたらやんなきゃいけないからついてきたけどお、いなかったら別にいいんじゃないの？

【マリーカ】：わざわざ自分から火の粉をかぶりに行くのもなんですし

【プーチン】：で、どうしても倒せっていわれたら、また話は別だけど。倒せって言われた人ー？

【マリーカ】：まあ、倒したほうがいい、とはいわれたけれどね。なんか村のために以下略みたいなことをあの人が言っていたかな

【ラズロック】：でもわざわざ巣穴っぽいところに潜りこく危険を冒してまで、とは言われてないからなあ。

【GM】：(寂しそうに) 歴史の壁には歴史が書いてあります。女神様は昔いたけれど、いなくなってからデーモン族とドラゴン族がどんばちやって人間は逃げまくったと。

【マリーカ】:そろそろ<熱血>っぷりを示してみるか。

【GM】:人間たちはその戦いに巻き込まれないように西の林に隠れて井戸水で渴きを癒した、みたいな記述を見つけました。

【マリーカ】:「でも、ネズミも退治できないで成人の儀式とは笑えるわね」(笑)

【プーチン】:「でも、俺の成人の儀式は退治しなかったぜ」(笑)

【マリーカ】:「いなかったからでしょ」

【GM】:部屋の片隅にはフレイル(僧侶用武器)とかが山積みになってます。

【マリーカ】:フレイルだけが山積み?

【GM】:そう、僧侶用武器だけが山積み。

【マリーカ】:山積みのフレイル。

【ラズロック】:えっ、どこ?

【GM】:部屋の右手前隅。

【プーチン】:どんどん進行していったりリーダー.batみたい。ふつうのフレイルっすよね?

【GM】:+1も一本あるよ。

【プーチン】:なんだとっ?!

【GM】:一本じゃないや。一振り?(数助詞の問題らしい)

【マリーカ】:拾うと明確に強くなるぞ、って書いてあるみたい。物欲しそうな感じでフレイルを見ている感じ。

【プーチン】:えと、じゃ、あれだ。俺は<意地汚い>んで、近づいて、こうやって手に持っているフレイルを「おおっと」とその上にわざとらしく落として「いやいや落としちゃったよ〜」と+1を拾う(笑)

【マリーカ】:そこにかぶせて「あなたが落としたのは+1のフレイルですか、それともふつうのフレイルかしら」(笑)

【ルクレチア】:「これが大人同士の会話なのね」(笑)

【GM】:成人したからわかるよ、うん。

【マリーカ】:って、結局挑発っぽい台詞を吐いてみたけど、「行くの、行かないの?」で、結局どうするの? 新成人さん

【ラズロック】:ようし、それじゃ、どうしようかな……。ふつうに帰ります。

ふつうに帰りつつ、横は警戒すると。HPが一桁になったら死んじゃうよー、とか思いつつ。

【マリーカ】:魔法使いは1点でも喰らったら一桁になっちゃうじゃん

【GM】:では、リーダーさんはサイコロ1個振ってください。1が出ればワンダリング・モンスターです。

【ラズロック】:6

【GM】:ではろくなことは起きない。

●帰途

【GM】:ではなにも起こらず、D3までようこそ。

【マリーカ】:つまり、D3で問題が起こるんだ(笑)

【GM】:巣穴のほうが賑やか……って巣穴じゃない。

一同:失笑

【ラズロック】:どう見たって巣穴ですよー(笑)

【GM】:横の小穴ですね。

【マリーカ】:「ぼく、みっきー」って声が聞こえるんですね(笑)「弁護士を雇わないところは通さないぞ」(笑)

【GM】:穴からはこんな感じでネズミの群れがわらわらと(イラスト参照)

【ラズロック】:そんな穴なんですね

【マリーカ】:というか、わんさかいるじゃないですか

【GM】:わんさか出てきてくれます。サイドアタック。隊列の真ん中辺りかなあ。

一同:笑

【プーチン】:というか、わんさかうるさかったら、そっちに向かって警戒態勢を展開するでしょう。

【マリーカ】:いっくらなんでも。みっきー声だし。

【GM】:やっぱり? そうだよな。

【ルクレチア】:じゃ、逃げる。



【マリーカ】：逃げようとする前にぱっときそうですけどね。「やあ、君たち、逃亡は許さないよ」

【GM】：じゃあ、前衛の方々がD 3に入ると鼠の群れがひよこひよここと。みっきーまーちを流しつつ。HPの高い方に襲いかかってきます。

【マリーカ】：まじで？

【GM】：HP高いのは戦士のマリーカさんだわな。2D6を振るがいい。高い方が（GMにとって）いいの

【マリーカ】：4

【GM】：ネズミたちは地面を這う虫に注意を取られている。

【マリーカ】：あんなところにうまそうな虫が！

【GM】：おっ、さきほどの焦げた虫が美味しそうだ。

【マリーカ】：ここじゃないんだけどね、焦げたのは（隣のE3）。ここまで飛んできたのか、焦げた虫すごいな。ま、いいや。

【プーチン】：みっきーネズミが虫をくわえてる光景って、あれだね。

【GM】：誰か一人が殿（しんがり）になって逃げる、戦う、2つの行動オプションがございます。リーダーどうします？

【ラズロック】：気をとられているんなら……

【ルクレチア】：「俺がここは抑えているから逃げろー」「リーダー、そんな」「後は任せた」（笑）

【プーチン】：ちなみに、ネズミはどれくらいの大きさがどれくらいいるんですか？

【GM】：ふつうの人間の拳大が10匹ですね

【ラズロック】：ちっちゃいのが10匹。

【GM】：匹数に等しいHPを持っています。2ラウンドくらい経つとどっかからリーダーがやってくる。

【ラズロック】：気をとられているのなら、その横歩いていけないのかなー？

【プーチン】：それはさすがに難しいんじゃないかなあ。

【マリーカ】：じゃあ、叩き潰すけど。

【GM】：一人残れば通り抜けられますね

【マリーカ】：あんまり一人残すのはよくないんじゃないかな

【GM】：ま、2人でもいいけど。

【マリーカ】：いや、4人残すか。

【ルクレチア】：3人残そう。

【プーチン】：じゃ、さようなら（笑）

【マリーカ】：「とりあえず見つけたら退治してこい」とは言われているし」と剣を抜く。

【ルクレチア】：見つけちゃったねー

【マリーカ】：「見つけちゃったし、殺すか」

●初戦闘は対ネズミ

【GM】：ではPCサイドから行動可能です。

【ラズロック】：「アドバンテージがとれてる今がチャンスです」

【マリーカ】：……というわけで、行動に入りますか。何かやることある人。ちなみに魔法使いのHPは貴重です。

【ルクレチア】：貴重でした。

【GM】：貴重だから削るよ

【マリーカ】：特にエンチャント付けたりがなければ攻撃のサイコロを振っちゃいますよ

戦闘は、「どの攻撃方法で（武器、魔法）」「誰を」を宣言してからクラスごとの戦闘マトリクス表を見ることで影響が決まります。その影響（ダメージなど）を適用し、HPが0になったり戦場から離脱させれば戦闘は終了となります。

攻撃される側は、基本的に攻撃側の出目が悪くなるよう祈るくらいしかできることはありません。

【マリーカ】：てやっ、5。〈何とか剣の先が当たる。2ダメージだ！〉鼠が2匹ほど……

【GM】：潰れまーす。

【ルクレチア】：「おやびーん」（ネズミ語）

【GM】：断末魔をあげてネズミが2匹倒れます。

【プーチン】：10匹集まるとラズロックと同じHP。

【ラズロック】：10ネズミですから。

【マリーカ】：ここでネズミが8つにわかれるとHP1の敵が8回攻撃ですよ（笑）。で、ラウンドの最後にぱっと一体に戻るの。

【ルクレチア】：きたねー。

【GM】：いや、分離してたほうがオーバーキルでも他の奴にダメージいなくていいから合体しないよ。分離や合体できないけどね。

【マリーカ】：そのかわり、範囲攻撃を食らうと一発で全滅しちゃうので。「まずい、敵は範囲攻撃を使う」っていう瞬間に合体してHP8に（笑）。

【GM】：[火焰砲射] あたりが集団攻撃呪文でしたっけ？

【ラズロック】：ですね。でも消費HPが5＋レベルなので……（HP上限＝10）

【GM】：6しか使わないよ（笑）

【ルクレチア】：殴っちゃいまーす。ぶん。〈それ、当たったぞ。兎に角1ダメージだ。〉

【GM】：あと7匹。ネズミが断末魔をあげるごとに後ろのほうで何やら足音というか、動く音が。

【プーチン】：じゃあ、逃げますって（笑）

【マリーカ】：やばいやばい、あの僧侶、逃げるしかコマンド入力がない（笑）

【GM】：前は小ネズミ、後ろはなんだろ？

【マリーカ】：逃げたければ裁判で勝ってみろよ（みっきー声）（笑）

【プーチン】:〈思慮深く〉ハッハーと。〈何とか当たって、2ダメージ〉

【GM】: そうそう+1 武器なので、出目が+1 されますよ。希望するなら。

【プーチン】: 希望します。じゃ、〈なんとか、2ダメージです。〉

【GM】: おつ、盗賊のルクレチアさんよりでかい。2ダメージ2人か。ほう。

えーと、魔法以外はですね、一番でかいダメージを与えたところに反撃が行きます。

【ラズロック】: では、でっかいのがくるまで、とりあえずローリングストーン。

【GM】: あれ? 石投げる? じゃないや、石転がす?

【プーチン】: 魔法で?

【GM】: あれ、そんな魔法あったっけなあ? (ごそごそ)

【ラズロック】: ふつうの攻撃です。

【プーチン】: あー。1 レベルの称号が〈ローリングストーン〉なんだ。

どのクラスも、各レベルごとに称号があります。たとえば、魔法使い1レベルは〈ローリングストーン〉です。戦闘マトリクス表に書かれているので、今回のラズロックさんみたいな勘違いも。

【ラズロック】: 〈何とか当たった。1ダメージ〉

【GM】: あと4匹。

さて、反撃。2ダメージ与えてくれたのがお二人さん。HP高いほうに反撃いきます。振ってください。

【マリーカ】: うわっ。ころころ、2。

【GM】: その出目だとGMが振ったほうがよかったかな。〈群れは突然、ばらばらになって逃げ去ってしまった——戦闘終了〉

一同: おおっと (笑)

【ルクレチア】: 終わったー

【プーチン】: まあ、これだけ倒されたら士気崩壊するよなー。

【ルクレチア】: いやなんだろう、『夢物語』のゴブリンみたいに一斉になくなったあと後ろから回り込んでくるとか (笑)

【プーチン】: そうなると炎をまとったネズミたちとか? それはそれで怖いなあ。

【ルクレチア】: 「お前たちでは相手にならん。逃げろ」と魔法使いがいつて (『指輪物語』)

【プーチン】: それは逃げ出しちゃうからだめだなー (笑)。

【GM】: とりあえずふつうのネズミたちは小穴へと逃げ帰っていきます。代わりに何ものかが、あなたがたの後ろ、B4〜B3〜C3のほうからはずんずんと近づいてきます。

●大ネズミ

【GM】: C3のほうから素敵な足音が近づいてくるのが聞こえます。まあ、1ラウンドでネズミの群れを倒したので逃げることも可能です。

【ルクレチア】: 「お前たちでは相手にならん」 (笑)

【マリーカ】: だから、あいつは先頭切って走って逃げるからダメだって。「私でも相手にならん」って。

【GM】: ネズミの群れはですね、盗賊用の短剣を1本落としていきますね。

【ルクレチア】: なに!? 盗賊用の短剣! どこに。

【GM】: ここですね。小穴の入口辺りに盗賊用の短剣を落として逃げていきました。

【ルクレチア】: えーと、〈思慮深い〉〈ギャンブル好き〉だけど〈臆病〉

【プーチン】: それ、迷うんじゃない?

【GM】: 迷っていると後ろから何か来ます。

【ルクレチア】: 迷うよなあ。

【マリーカ】: 『バイオハザード』とかでいうと、とろうとすると床が崩れて次のステージへ。そんな流れですね。

【ルクレチア】: 迷った挙げ句、どうする?

【ラズロック】: 別に盗賊自身が拾う必要はないですよ。

【マリーカ】: ちょっととってきて〜、とか。

【GM】: じゃ、メイジのラズロックさんがとる?

【ラズロック】: いやいやいやっ! (爆笑) じゃ、したら、あれですね、前衛をそっちの音がするほうで警戒させて……とりに行く。

【GM】: では、これはできのいい短剣だ。+1 ですね、ネズミ臭いけれど。

【プーチン】: 洗えば大丈夫。

【ラズロック】: では「これを使え!」

【プーチン】: ぱっと受け取ろうとすると、スコンと落ちると。

【GM】: じゃ、投擲判定どうぞ。+2の修正差上げましょう。

【ルクレチア】: それでも半分、成功率?

【ラズロック】: 射撃行動マトリクスでいいですね。〈よし! 狙ったとおりの命中だ!〉

【ルクレチア】: じゃ、腰抜かします。

【GM】: いえいえ、受け止めやすいところにとんでいきました。

【プーチン】: てか、スパーンと飛んだじゃなくて放物線描いて飛んだじゃない (笑)

【ラズロック】: 魔法使いなんで、ビュンとか激しいものはないです (笑)



【GM】：じゃ、そんなことをしているとC 3から巨大なネズミがやってきます

【ルクレチア】：落ちてから短剣を拾います

【マリーカ】：「あのさあ、女の子になにやってるの」とか言っときますよ

【GM】：腹を空かせた巨大ネズミ登場～

【マリーカ】：ハングリー精神に溢れている。

【プーチン】：「お構いなく……」

【マリーカ】：向こうがかまってくるんですよ。

【GM】：おいしそうって感じで見つめてきてます。

【ルクレチア】：倒した3匹のネズミが美味しそうなんだね（笑）。

【プーチン】：えーと、食料は持っていない

【GM】：お腹空いているのでHP半分です。

【マリーカ】：なんだとー、すごい腹減りだ。

【ルクレチア】：それじゃ動けないんじゃないか？

【GM】：最期の力ですね。

【ルクレチア】：野生の力！

【マリーカ】：というわけで先方は待ってくれないようですが。

【GM】：リーダー、最初はグーだっ。

【GM】・【ラズロック】：最初はグー、じゃんけんばんっ。

【GM】：先攻・後攻どちらにします？ チョキで負けました。

【ラズロック】：先攻！（笑）もちろん先攻ですね。最初から来るのはわかっていたのでナイフ拾ってから呪文唱えてました。[旋風魔刃]！

【GM】：やです。

【ラズロック】：えっ（驚）。[旋風魔刃]を当然前衛のマリーカさんにかけておきます。

【マリーカ】：っと攻撃呪文じゃなかったか。魔法は1D6でしたっけ？

【GM】：そうですね、1D6+レベルですね。

【マリーカ】：ですから、5以上出すとかけっこうシビアなんですよ。

【ラズロック】：4以上ならなんとか。ころころ～成功。<風が吹き、武器が光る。次のラウンドに敵にダメージを与えたならば、それは2倍のダメージとなる！>

[旋風魔刃]は仲間の武器を増強する魔法使いの魔法です。

【GM】：次のラウンド？

【ラズロック】：次のラウンド？

【ルクレチア】：このラウンドじゃなくて次のラウンド？

【プーチン】：次のラウンド……がんばれ。

【マリーカ】：とりあえず、このラウンドはふつうに斬ります。

【GM】：魔法使いのラズロックが先に行動したので、

このラウンドから適用してもいいですよ。

「次のラウンド」とあるのは、もともと戦闘に参加するプレイヤーのサイコロを《一斉に》振り、行動を同時に処理するようになっていたためのようです。

【ルクレチア】：えー、そうなの？

【GM】：嫌ならいいけど。

【マリーカ】：じゃせっかくだから、ぶん。てーい、がんばった。<剣は相手の身体に深々と刺さった！8ダメージだ！>（2倍して）16ダメージだ！

【GM】：へっ！？（裏声）

一同：爆笑

【GM】：お腹減ってなくてよかったかもしれないな……（HPそのままでよかったなあ、こりゃ）。残り4点！

【マリーカ】：じゃ、+1ダガーの威力を！

【ラズロック】：1ラウンド使って、そこらへんのネズミの死体をくってるとか？

【ルクレチア】：+1ダメージで、と、ころころ。

【GM】：っと、出目に+1ですよ。

【ルクレチア】：<3ダメージ。どうだい。なかなかの腕前だろ？>

【マリーカ】：あと1点、サクッ。

【GM】：なぜわかるっ？

【マリーカ】：GMが言ってるじゃないですか！？（笑）

【GM】：ネズミは血色悪そうに体中から血を流しながら

【マリーカ】：そしてトドメは……いじめる？

【GM】：[神の怒り]でオーバーキルとか？

【プーチン】：[神の癒し]で回復。「これでは儀式にならん」

[神の怒り]は神の怒りにより、すべての敵にダメージを与える僧侶魔法です。

[神の癒し]は紙の試合により、仲間の傷を癒す僧侶魔法です。

【ラズロック】：で、これ着ぐるみで中に人が入ってるとか（笑）

【プーチン】：「えっ、殺しちゃいけないかった？」

【ルクレチア】：口のところから大司教の顔が……（笑）

【プーチン】：そうすると中間管理職が繰り上がって、俺のところに（出世）。そういうことなら<思慮深い>んで迷わず攻撃。まあ、大司教の顔は口に出てないだろうけど。ころころ。

【GM】：出てませんって（笑）

【プーチン】：レベルも足せるんですっけ？ だめ？ じゃ、<3ダメージを与えることが出来ました>

【マリーカ】：死んじゃったんじゃないかな

【GM】：オーバーキル2点。巨大ネズミは腹を空かせたまま、

【マリーカ】：「無念～もっと食べたかった～」

【GM】：と断末魔をあげて、さらに巨大なネズミが(嘘)一同：笑

【マリーカ】：第二第三のネズミが……

【ラズロック】：まあ、いいですけど(強気)。

【プーチン】：「これはジャイアントラットの中でも小者中の小者」

【マリーカ】：腹を空かせてない奴が新たに(笑)

ってのはさておいて、これで一応退治したことになるのかしら？

【GM】：されました。

【マリーカ】：では、リーダーは。

【ラズロック】：これで危険はなくなった。存分に洞窟を探索するんだ。

と、戻ります。

【GM】：帰るの？

【ラズロック】：C 3に戻ります。そのあとC 4へ。

【プーチン】：(調子に乗って進むと) ふつうに天然動物に殺されて死ぬんだよ(笑)

【GM】：C 4行くの？ では、C 4へと。

【マリーカ】：なんかリーダーが調子に乗ってる(笑)

【プーチン】：魔法使いが「よし、ボス倒したから残り探索しようぜ」って言うてるので周りが慌ててる(笑)

【マリーカ】：自分のキャラクターは「まあ、いいんじゃないの」って。

【GM】：同行するかどうかは君たちの自由だけど。

【ルクレチア】：「一番怖い敵、倒したんですよえ」と言いつつ、ついていきます。

【マリーカ】：「私は同行しろって言われてるからね」

●迷宮漁り

【GM】：はい、C 4へようこそ。

奥壁と手前壁がふさがっていて、右に道がつながっています。

ここは巨大ネズミの住処だったようでゴミがたくさんそこら中に散乱しておりますな。

【マリーカ】：ごみだらけ。

【ラズロック】：めばしいものは？

【GM】：特に見当たらない

【マリーカ】：ウッヒャー、ゴミだっ！

【GM】：で、そうだ、道の先の方から水の流れる音がひよろひよろ聞こえてきますな。ぴちよぴちよ。

【ラズロック】：地下水路でつながっているのかな？

【ルクレチア】：タコとかいるのかな？

【GM】：真水のタコか……

【マリーカ】：真蛸？(笑)

【ラズロック】：真蛸かダゴンか……(笑) 地下水にダゴンはいてほしくないなあ。

ダゴンといえば「クトゥルフ神話」のあれですよ、あれ(当然GMは会ったことも呼び出したこともない)。

【GM】：さてと、この洞窟を抜ければケーキのお代わり頼みますか(遊んでいる場所はケーキバイキング中)

【ルクレチア】：ケーキのためにここで急に探索終わらせたりはしないぞ、俺は。

【GM】：先週やったセッションではまっすぐ行って、まっすぐ帰ってきたからなにも手に入らなかったからなあ(笑)。

【プーチン】：ふつう、まっすぐ行くよねー。

【ルクレチア】：まあ、リーダーがいい気になってるからこそ、こういう行動とってるわけで。

【GM】：では、C 5へ到着と。

右壁が壁って感じで、行き止まりになっておりまして、奥から手前に向けて川がひよろひよろと流れてます。

【ルクレチア】：川は上れない？ 下れない？ さかのぼれない？

【ラズロック】：渡れる？ 渡れない？

【GM】：えーと、川の向こうが右壁にぶつかってまして、渡れませんな。

【ラズロック】：奥壁は？

【GM】：奥壁を貫いて川は奥の隣のマスへ。上というか上流へ。

ネズミさんくらいの体格ならばさかのぼれそうですね。人間ではちょっと厳しそうです。

【ルクレチア】：なるほど。

【プーチン】：では、ここで肩関節とかをパキパキと……外して。

【マリーカ】：リーダー、なに外してるんです？！

とか。

【ラズロック】：たぶん、前屈できないレベルですから(笑)魔法使いなんで。

手前壁は？

【ルクレチア】：そっちに流れる川は下れますか？

【GM】：巨大ネズミには厳しく、子供くらいならなんとか

【ルクレチア】：13歳の子供は？

【プーチン】：13歳は成人だぞ(笑)。お前たちは儀式を終えたから成人だ。

【GM】：身長120cmくらいならばなんとか流れられそうですね。

【ルクレチア】：今だっ、追加設定のチャンス！(笑)

【ラズロック】：では、当然ルクレチアさん孤児の13歳女で血色不良でだいぶちっちゃいとか(笑)

【プーチン】：決して萌え要素ではない。
【GM】：川の手前で折れ曲がっていたりして、ぶつかるって痛そうですね。
【ルクレチア】：結局難しいのか。
【マリーカ】：突っかかって止まってしまったりするんですね。
【ラズロック】：結構小さい川というか流れなんですね。
【GM】：小川というか、ネズミの水場のようなですね。食べかすなどが散乱しています。ヒルとか。
【ラズロック】：川に何か落ちてない？
【GM】：そのへんはサイコロ振って1が出れば。
【ルクレチア】：とりあえず水があればコイン入れるよね。
【プーチン】：じゃ、入れてみっ（笑）。俺拾うから。
【GM】：その出目では特に落とし物は見つからないですね。
【ルクレチア】：「あなたの健康を祈ってもう一枚」（どこぞのゲームブックネタだったはず）
【プーチン】：俺の懐を願ってもう一枚（笑）
【ラズロック】：じゃ、戻って行って、E3まで戻る。さすがにD3で奥のネズミ穴D2へ行く勇気はないですね。
【ルクレチア】：いや、D3で大ネズミがいなくなってるから……って、大ネズミの死体は？
【GM】：君たちは処理してないから……、ネズミが群がっていたけれど、君たちの足音とともに逃げるね。また穴に戻っていく。
【ルクレチア】：大ネズミを喰うのか、ネズミ。すげーな。
【ラズロック】：大ネズミ引きずってく？
【マリーカ】：倒したという証拠になるかもしれないけれど。
【ルクレチア】：もしかして、大ネズミで穴埋まったりしない。
【ラズロック】：いや、大ネズミが通ってきてる、だから。
【GM】：大ネズミはこの穴ではなく、C3から来たんですね。
【ラズロック】：でも、足跡が穴のほうにあったんですね？
【GM】：小ネズミたちの。
【ラズロック】：それに混じって大ネズミのって言ってませんでした？
【GM】：それは別の二足生物ですね。
【プーチン】：ヒューマノイドが俺たち以外にいるかもしれないと。
【ルクレチア】：ここは通れる穴でしたっけ？
【マリーカ】：屈んで、なら。
【プーチン】：そこまでして行くのか、と。

【ルクレチア】：とりあえず大ネズミで埋めよう。
【GM】：小ネズミが食べ終わったら出てくるよ
【プーチン】：食べ終わるまでの時間は稼げるし
【マリーカ】：大ネズミの死体には、大きくさせる因子が入っていたりして（笑）
【ルクレチア】：倒したよ、という証拠は？ 持って帰る、これ？
【ラズロック】：尻尾切る。尻尾持ってく。
【GM】：見届け人がいるじゃないですか（笑）
【プーチン】：俺が殺したよ（笑）
【ルクレチア】：確かにプーチンが止めさせたなあ
【プーチン】：報告するときには「あいつら不甲斐ないんで俺が止めさしました」（笑）
【マリーカ】：すごくざっくりした性格なので「それでいいんじゃない。別に倒したことに違いはないし」
【ラズロック】：魔法使いとしては、筆記用具があるのでとりあえず地図を描いてます。あわよくば、横穴とかのね、報告して追加料金っぽいものをいただくよ。
【GM】：地図を極めるためにD2へ行くんですね（笑）
【マリーカ】：D2は極めに行かなくても（笑）
【ラズロック】：さすがにその危険は冒せない。
【マリーカ】：行くとしたらE4に行くかどうかかな。
【プーチン】：「で、穴の先はどうだった？」と訊かれる（笑）
【マリーカ】：ゲームブックだと死んじゃうパラグラフですよ
【プーチン】：そうそう（笑）
【ルクレチア】：じゃ、穴はなかったって言うておけばいいんだよ。
【GM】：ラズロックさんが入ったところを、みんなが大ネズミで塞ぐというのも（←いじめ、よくない！）
【プーチン】：ラズロックがそれを食い破って出てくる。「貴様ら！」いいながら。
【マリーカ】：「この俺を謀るとは〜」
【GM】：とりあえず穴の奥には行かないで、道を塞いで終わりと。
【マリーカ】：まあ、E4に行きたがっている人がいるような、いないような。
【GM】：じゃ、E3まで戻れました。このまま帰るというオプションと、脇に逸れてE4へ向かうというオプションがありますね。あと、祈るというオプション。
【マリーカ】：祈ってもなにも起きないよって言われる（笑）
【プーチン】：じゃ祈る。「神よ、こいつら早く帰し

てくれ」

【マリカー】：HPを払って魔法扱いにすれば通用するよ、って言われる（笑）

【ラズロック】：身を削れ……？

【GM】：「最後の奇跡」相当になるかもしれませんねー。

【プーチン】：最後の……って（笑）

「最後の奇跡」は僧侶魔法の最終奥義です。絶体絶命のピンチをどうにかできるのかもしれない。

【GM】：どうないすんねん？

【ラズロック】：行くかな、どうしようかな？

【マリカー】：行くなら行きますよ

【ラズロック】：じゃ、行きましょう

【ルクレチア】：では、例によって先頭に。

●うーぱー

【マリカー】：にゆるにゆる～

【GM】：E4は手前壁と奥壁が塞がっていて、左からの道が右につながってまーす。

で、水の音がもっと大きくなってきますね。

【マリカー】：ずばー。水の音？

【ラズロック】：多分、上の小川がつながってきているんでしょう。

【マリカー】：ウォーターカッターみたいなものがあるのかな？

【プーチン】：で、先頭の奴がダメージ受けるの？（プーチンは後衛）

【マリカー】・【ルクレチア】：やだなー。

【ルクレチア】：盗賊15点しかHPないから死んじやうよ～。魔法使いのラズロック、さっき何点HP使ったの？

【ラズロック】：3点なんで残り7です。

【マリカー】：3割の損害を受けた（笑）。やばい、軍隊だったら壊滅だー。

ちなみに薬草とかありますよね？

【ラズロック】：3つもらってますよね。

【プーチン】：使おうとすると、「まだもったいない」ってなるよね。

【マリカー】：6点使うまではもったいない（薬草はサイコロ1個分のHPを癒します）

【プーチン】：で、死ぬんだろ。

【ラズロック】：なににもないなら、そのままE5まで。

【GM】：E5！ 川が上から下というか、奥壁から手前壁に向かって蛇行しながら流れてます。道は右につながってます。

【マリカー】：まだつながってるんだ？ 川を渡らないと行けな



い感じ？

【GM】：はい。そして、その川からぬめぬめしたこんな2足生物が姿を見せます

【マリカー】：ぎょろっとした目の奴ですね。

【ラズロック】：ウーパールーパー？

【マリカー】：これ、ドラゴン族らしいですよ。プレイヤー（PL）的知識ですが。

【プーチン】：ドラゴン族！？

一同：ざわ、ざわ

【GM】：まあ、マリカーの兄貴が武者修行中に倒したという話を聞いていたということでもいいでしょう。自慢げに兄貴が語っていたのを思い出す。

【マリカー】：兄貴、兄貴って誰？（笑）

【ルクレチア】：君がぶっ倒した奴（笑）

【GM】：君の兄貴で道場の跡継ぎ……（って設定したのはおぬしじゃ！）

【プーチン】：ってか、今の台詞さあ『ドラゴンランス伝説』でレストリンが「私にはキャラモンという兄は存在しないし、そんな知り合いもいません」て手紙を思い出すね（笑）

【マリカー】：あー、キャラクターの兄貴か。てっきり、去年儀式をした人々のことかと。

【GM】：さて、川幅はなんと2mもある。深さ50cmくらいで右壁に木の壁が設けられていて、その中央に扉がある。

【マリカー】：木の扉がある？ 幅2万mとかじゃなくてよかった（笑）

【GM】：川でぴちょぴちょ遊んでた……じゃなくて警戒していたウーパールーパーさんたちが魂消た様子で君たちを「えーっ」て見つめて、

【マリカー】：こいつら頭悪そうー

【プーチン】：「やあ、友達」

【GM】：といわれて、さらに驚いた様子。「え、えーっ」という感じで槍で突っついてくるね。

【マリカー】：驚いて刺してくる？ キレやすい人たちだ。

【GM】：2D6振ってくださいーい。

【プーチン】：おれ？ ころころ。

【マリカー】：攻撃だったらしい（笑）

【GM】：〈振り回した槍の先っぽが当たって、1ダメージ〉をあなたの体に与えます。

【ルクレチア】：ぎゃー。

【マリカー】：「なんだこりゃー」

【プーチン】：「なにすんじゃ！ ボケえ！」（笑）

【GM】：「ええー？」ってまた槍でつついてきます。

【ルクレチア】：じゃ、こっちからも盗賊用剣で突いてみます。

【GM】：ウーパールーパーは強いぞー。なんてたって、マリカー

カの兄で道場主が互角の戦いを繰り広げるほどの存在だぞ。

【マリーカ】：あまり兄貴は強いかわからない

【ルクレチア】：せーの、ころころ。+1して、も、〈残念、空振りだ。なんて扱い難い武器なんだ〉(笑)

【マリーカ】：ありゃー、武器のせいにしやがった

【プーチン】：あれ、+1の武器ですよ(笑)

【マリーカ】：それはたぶん、贅沢だっ！

【ルクレチア】：ネズミから手に入れたものだからなあ。まあ、今度よく洗っとこ。

【マリーカ】：ネズミじゃない、ウーパールーパー。ということで、ぶん。

【GM】：AとBがいるけど、どっち？

【マリーカ】：Aさん。さっきとおなじで2ダメージ。剣の先が当たった。

【プーチン】：魔法を使ってみようかな？

【ルクレチア】：「コマンド：魔法を使う」？

【マリーカ】：HPを払ってくださいー

【プーチン】：なんか体力最大値の1／3が削れる魔法だな。

【GM】：剣を叩きつけてみた感覚では、腹を空かせた巨大ネズミと同じくらいの耐久性を持ってそうです。

【マリーカ】：約20点くらいってこと？

【プーチン】：「神の怒り」的な？

【GM】：集団攻撃でしたっけ？ やだなー。

【プーチン】：どーん。レベル足して〈5：パラパラと小石が降ってくる！敵全てに5ダメージ！〉

【ルクレチア】：痛えー

【GM】：それはいかがなものか。まあ、それだけプーチンさんもHP削ってますもんね。残り十ウン点。

【プーチン】：まあ、俺が5点削ったおかげで奴らに5点ずつ

【マリーカ】：黒字。

【GM】：では、ラズロックさんがとどめを。

【ラズロック】：どうしよう？ いやいや……

【GM】：「デーモン族めっ」とウーパールーパーがぼんやりした顔で。

【ルクレチア】：デーモン族らしい。

【マリーカ】：ぼんやりした顔で！(笑)

【プーチン】：寝ばけてやがる

【GM】：「二本足で歩くお前はきっとデーモン族に違いない」

【マリーカ】：お前も二本足でデーモン族じゃないか！

【GM】：いや、ここに(イラストの尻尾を指さす)三本目の足相当の尻尾が(笑)

【ルクレチア】：真ん中の足がある！(笑)

【ラズロック】：「火焰砲射」だと厳しいなあ。

【火焰砲射】は炎を放射する全体攻撃の魔法使いの魔法です。

【ラズロック】：戦闘中、薬草など使えますよね？

【GM】：使えるよー。シューッと打つだけだから(手首に注射針を当てるジェスチャー)

【ラズロック】：〈ヤク〉草？ そいえば、1人3つ？

【GM】：(敵にとって)残念ながらその通りです。

【マリーカ】：GMが残念がってる(笑)

【GM】：みんなで3つでもいいと思うんだけどね。

【マリーカ】：あげたのはGMじゃないかー

【ルクレチア】：いやいや……あげたのは……

【GM】：NPCのネーラレインさんだよ

【ルクレチア】：シナリオライターさんだよ

【GM】：……って、それもわしか。

【ラズロック】：じゃ、うーん、[火焰砲射]っ。

【GM】：いきなり派手にやるなあ。そうそう、洞窟燃えちゃうかもよ？

【ラズロック】：川があるじゃないですか(笑)

【GM】：……と、灯油の川かもよ？(苦笑)

【プーチン】：それは考えてなかった

【ルクレチア】：ちなみに灯油だったら……

【プーチン】：川にいるウーパールーパーさんは死ぬんじゃないかな(笑)

【マリーカ】：「地形適応：灯油」？

【ラズロック】：残りHP1になりました。

【ルクレチア】：やばいやばいやばい……

【GM】：それはいかがなものかな？

【ラズロック】：Fire!! 4+1で5の効果は、全体に5ダメージ。

【GM】：1匹一桁になった。

えーと、ウーパールーパーさんの番。

ダメージ5点を与えた奴らに、怯えた感じの視線を向けて終わり……。

【ルクレチア】：遠い〜、ホントはあすこを殴りたい〜って感じですね。

【ラズロック】：後衛がダメージを与えるとこういうことになるゲームだったんだ。

特に反撃について設定されていない敵は、そのラウンドにその敵へ一番大きなダメージを与えたキャラクターに反撃します。そして、その一番大きかったダメージが魔法攻撃の場合は、反撃できずに視線を送って終わります。魔法攻撃は、反撃できないような間合いから放ったと見なすからです。

【GM】：では、プレイヤーサイド。動いてもいいし、動かなくてもいい。

【ルクレチア】：よーし、じゃあ

【プーチン】：「君たちは動いてもいいし、動かなくてもいい」って(笑)。降伏勧告しながら殴るよ。

【ルクレチア】：いや、殴りながら降伏勧告する。ころころ、8+1で9

【GM】：(小声で)猫騙し、猫騙し〜

【ルクレチア】：<3ダメージ。どうだい。なかなかの腕前だろ？>

【GM】：「うわあ〜、もうだめだあ〜。B助〜」

【マリーカ】：ではそこに殴りかかるか。あっ、失敗だ。ぶんっ。空振り。スゴイね、この剣、さっきから5以下ばかり。ダイス変えるか。

【GM】：「外れて……くれた？」

【マリーカ】：GMの代わりに敵の攻撃振るときもひどいということはこのダイス、ホントにひどい……。

【GM】：そろそろ自分で持ってきたサイコロ出すかなー。

【プーチン】：これ、一回帰って、それからもう一回ここを見に来るのもいいけどね。

【ルクレチア】：ウーパーいなくてなってるかもしれないし。

【ラズロック】：でも、扉があってということは、ウーパーたち何か作ってたり？

【プーチン】：だから、E5の右壁に木の扉があるっていう。

【GM】：大丈夫、大丈夫。次の部屋での遭遇用のイラストも準備してあるから。

【ラズロック】：ウーパー倒したら逃げようか？

【プーチン】：じゃ、今の奴を殴ろう。それとも、もう1回【神の怒り】でいっかな。

【GM】：まだ僧侶プーチンはHPに余裕があるのね……

【ルクレチア】：【神の怒り】でいいダメージ出してくれば、また敵の攻撃なしだから。

【プーチン】：ころころって、魔法はサイコロ1個だ。っと、ころ。5+1で6。前回と同じで、ばらばらと小石が降ってきて敵すべてに5ダメージ。

【マリーカ】：一人なにげに死んじゃったっすね

【GM】：A太郎が倒れて、B助が痛がっている。

【マリーカ】：B助はそっちのプーチンを睨みつけてるのね……。うりうりっ。

【GM】：一匹倒れるとそれを引きずってE6へ逃げるって、シナリオに書いてある。

逃がしてくれる？

【ルクレチア】：扉の向こうに逃げるの？

【GM】：扉を開けて、その向こうへ逃げようとしています。

【ラズロック】：この時点でAは死んでる？

【GM】：戦闘不能っぽいですね。

【マリーカ】：このゲームはソフトなんで「戦闘不能」なんです。

【GM】：ん？ 死亡でもいいよ。まあ、シナリオ的に戦闘不能かな。

【ラズロック】：戦闘不能？ どうしようかな？ このまま奥まで入っちゃうのは……

【GM】：迷っていると、ウーパールーパーたちはそ

のまま入っちゃうぞ〜

【プーチン】：前に出て殴ります（笑）

【ラズロック】：いや、川を挟んでいるので深追いはしません。で、自分のラウンドで薬草で回復したいですねえ。

薬を吸います……ころ、4点回復。

【マリーカ】：もう1個くらい薬草を吸ってもよさそうな気配だ。

【GM】：えーと、ウーパールーパーが扉に逃げ込むと同時に鍵がかかった音がした。

【ラズロック】：がちゃん。

【GM】：そんな感じでウーパーさんたちはE6に逃げていったとさ。

【プーチン】：じゃ、みんなでさあ、あれだ。ダメージ受けてる俺とかに、薬草とか薬草とか……全部使っていいんじゃない？

一同：うなずき

【プーチン】：で、全部使って……。じゃ、ウーパーを追う。「さて、こらあ！」

【マリーカ】：とりあえず薬草を1個ずつ喰っていただきます。持っている分を使い切ったら行ってください。余っているのを渡すので。

【ラズロック】：もう1回使いまーす。



【GM】：薬草使いまーす、ウーパーさん6点回復。
【マリカ】：ウーパーも薬草喰ってる（笑）
【プーチン】：あっ、マックス（HP最大値）までいった。
【GM】：そっちは（回復に）何ラウンド使った？
【ラズロック】：まだ1回しか振ってないんで。
【GM】：じゃ、こっちも時間的に使えるのは1回か。
【ルクレチア】：2回使ってもいいんじゃないね
【プーチン】：2回使う？
【マリカ】：すでに2回使っていた人がいたような。
【プーチン】：全部使う勢いでやっていたんだけど
【GM】：じゃ、こっちも2回目使っちゃうよ。時間ありそうなので。
【ルクレチア】：その間に扉開けちゃう？ 開けるだけ。
【マリカ】：えっ？
【プーチン】：まあ、……そうだ、俺たちが回復してるときに前衛ならありか。
【マリカ】：怪我してない人もいますからねえ。
【GM】：盗賊なら、簡単な鍵なので+2の修正で開けられます。
【プーチン】：（ぼそっと）蹴破る。
【マリカ】：簡単なお仕事。
【ルクレチア】：1D+3（＝レベル1＋修正2）でころ、8：よし、開いたぞ
【GM】：鍵開いた。
【マリカ】：じゃあ、開けた。

●ヘイタイガエル

【マリカ】：蹴破らずふつうに開けちゃった
【GM】：E6、行き止まり。右の壁の端っこでウーパーさんたちが、おたまじゃくしに手が生えたやつを2匹背中にかばいつつ、怯えています。
【GM】：真ん中にはヘイタイガエル（左下イラスト）が、2匹夫婦で槍を構えています。youたちを睨んでいます。
「お前ら、デーモン族ケロ？」
【マリカ】：それ何語？
【GM】：「かわいい子供たちには指一本触れさせないケロ」
この辺りの言葉ですね。
【マリカ】：「違うんだけど」
【ラズロック】：「あなたたちはここで何をしてるんですんだ？」
【マリカ】：あっ、後ろのほうから薬草もしゃもしゃ



食いながら。
【プーチン】：ぶはーって、吸いながらね。
【マリカ】：阿片窟みたいだ（笑）

【プーチン】：まさにそんな感じになってるよ
【GM】：「おいらたちは命令でここに住み着いてるケロ」
【マリカ】：「命令？ 誰の？」って訊きますよ。
【GM】：「上司から」
【マリカ】：「目的は」
【GM】：「目的？ 上司の命令を遂行する」
【マリカ】：あーだめだ。それ以上のことは考えてないらしい（笑）
【ルクレチア】：「上司の命令とは何？」
【GM】：ここの監視だそうです。
【マリカ】：ここ？ 洞窟の？
【GM】：はい。祭壇に近づく奴がいるかどうかの監視。
【マリカ】：近づいた奴、いる？
【プーチン】：俺。
【マリカ】：いや、ウーパーに訊いてるの。
【GM】：「お前らに教えてやる義理はないケロ」
【プーチン】：そうすると、「じゃあ、あのおう、君たちは敵か味方かわからない」
【ルクレチア】：おっ、（プーチン節が）始まった始まった（笑）。
【プーチン】：「で、最初に攻撃してきたのはそっちだ。俺たちは、これからもう、なに、帰って君たちのことを報告して軍隊連れてくるから」
じゃ、ばたと閉める。
一同：（爆笑）
【マリカ】：やばい、後ろからドア閉められた（笑）
【プーチン】：なにー（笑）
【マリカ】：3人取り残されてる（笑）
【プーチン】：開けて外から覗いてだけで入ってなかったろう？（笑）
【GM】：えーと、マートカさんから「中にいる」宣言が出ました。
【ラズロック】：まあ、結果的にはプーチンさんのようになりますよね。
【プーチン】：パタンと閉めて、こっちから押さえつけて、中から開けようとしたら「で？」って。「素直に言えば、軍隊連れてくるなんてしねえからよお〜」
【マリカ】：「そういうわけで、もう少し話で済んだほうが楽だと思うけれど」
【ラズロック】：「時と場合によっては協力できるかもしれない」
【プーチン】：「俺たち、デーモンじゃねえし」
【ルクレチア】：「そうそう、まずデーモンじゃない」
【GM】：「二本足で歩いているのに？」
【プーチン】：「人間だよ、ばーか」
【GM】：「我々も……」
【ルクレチア】：我々もバカだ、とか言いそう（笑）

【GM】：「前線での権限は与えられているケロ」

【ラズロック】：「いい上官だ」

【プーチン】：いや、命令が臨機応変に対応しろっていう丸投げってやつかもしれないよ（笑）

【GM】：それから 50 分かけて身の上話をしてくれる

【ルクレチア】：50 分か……

【プーチン】：途中で聞いて「なげー」っていわれ
て端折り端折りながらで 50 分だった（笑）

【マリーカ】：途中でウーパールーパーの家の伝統もかも

【GM】：ですね、ヘビ女（ラムア）の紅鱗三姉妹ってのに命じられてここに赴任してきたと。半年ほど前に住み着いたそうで、この大扉の封印を解くものが現れたらドラゴン族の本国に知らせに戻っちゃいなーという話だそうです。

ここは、理想的なじめじめっぷりだったので、ついでに産卵して子育てしよう。

【ルクレチア】：この封印って毎年やってるの？ 去年来た人、どう？ 封印って毎年やってる？

【プーチン】：ふつうに開いたよ。

【GM】：13 歳が触れないと開かないそうで。

【ルクレチア】：13 歳？

【GM】：13 歳の、ここの集落の人。

【プーチン】：つまりだ、俺が触ってももう開かない。

【ルクレチア】：なるほど。

【プーチン】：なんか、エヴァ（ンゲリオン）みたいだね（笑）

【GM】：っと、一季節くらいまえにですね、デーモン族の女と樽っぽいものをつけたやつ（大砲を両肩につけた甲冑姿のデーモンのイラストを見せる）のコンビが、P C たちのこの集落を通らずに洞窟にやってきて大扉に向かって大砲をぼんぼん撃ちまくったり、開けられずに文句をつけたりしたあと、悪態つきながら帰ったそうです。

その際に、長女のおタマジヤクシが出くわして殺された。

【マリーカ】：『バイオハザード』で壁に向かってロケットランチャー撃つようなもんか（笑）

【GM】：それ以来怖くなって食料調達以外ここに閉じこもっていた。でもって、ウーパールーパーさんは怖いあまり、二本足で歩く不気味な姿に攻撃してしまったと。

【ラズロック】：ほお……

【ルクレチア】：ネズミは？

【GM】：ネズミは彼らがここに籠もってから住み着いたようで、よく知らないそうです。

【プーチン】：でさあ、「問題は君たちそれでどうするの？」

【GM】：とりあえず大扉が開いたと報告するために田舎に帰るそうです。

【プーチン】：別に大扉開けてもたいしたことないよ。

【マリーカ】：とりあえず「毎年儀式やってるのに、あんたらたいへんだね」と（笑）

【GM】：おかみさんが美味しい芋虫を提供してくださる。（ルールブックにある芋虫を勧めるヘイタイガエルのイラストを見せる）

【マリーカ】：美味しい芋虫……

【プーチン】：今、薬草を摂ったばかりなのであとでいただくよ。

【GM】：今、食べ頃なので食べると 2 D 6 回復するそうです。

【マリーカ】：すげえ芋虫だ。

【ラズロック】：食べて更に回復しておこうかな

【GM】：彼ら秘伝のおいしさを引き出す調味料の影響もあるんでしょね

【ルクレチア】：ふだん村で食べてる芋虫ですかね？

【GM】：ちょっと違うようです。川に住んでいるタイプ。彼らは帰る荷造りをはじめてます。

【ルクレチア】：じゃ、一ついただいてみるかな。

【プーチン】：ぎゃー、くそう。

【マリーカ】：死んじゃった？

【プーチン】：ぎゃーっていいながらウーパールーパーに変身していく、とか？

【ルクレチア】：おや、何、そのミュータントミートボール（ウォーハンマー F R P）。

大丈夫、伏見さんはそんなものを作らない（伏見さんはこのパールシードの制作者の一人です）

【マリーカ】：ルクレチアの様子が……（ポケモン G B 版の進化場面っぽい音を口ずさむ）でもって、B ボタンを探します。でも、これは X-box なので B ボタンはダメだよって言われます（笑）

【GM】：進化するんですか？

ころころ。6 点 H P が回復します。

【ルクレチア】：どこにもダメージ受けてません。

【プーチン】：では、どこか触手がびろ～っと。

【GM】：じゃ、上限が 1 点あがります。

【ルクレチア】：鼻血ぶー。でも、レベルアップしたら 2 レベル固有の H P になるから関係ないかなー。〈5 点あがるじゃなくて 20 点になる〉だもんね（笑）

【GM】：蜂蜜に砂糖汁を思いっきり混ぜてそこに生クリームをまぶしたような、やたら甘ったるい虫でした。

【ルクレチア】：「けっこう美味しいよ、これ」特産品にしてもいいくらい。見栄えは悪いけれど。

【マリーカ】：「扉が開く度に帰ってるの？」って聞いてみます。毎年毎年儀式で扉を開ける人間がいるって帰らなきゃいけないんだけど。

【GM】：こいつらが住み着いたのは半年ほど前ですね。

【ルクレチア】：じゃ、今年からってことか。

【プーチン】：13歳が触れば開くんですよ。このことで何かあると思ってるとなんなので、こんなものしかないよと説明する。

【マリーカ】：ちょっといいフレイルがほしいなら別だけど

【GM】：「女神像が……」

【プーチン】：「女神像があるんだけど、それべつにうちの村の奴だし、それに歴史の書かれたレリーフがあって、その程度のものしかないよ」と。

【GM】：奥さんは何やら川草で編んだような巻物を取り出して、調べはじめてます。「まさか、その光、《パールシード》の?!」とか。一人でイッちゃった感じで興奮してますね。

【プーチン】：「そんなすごそうなものがこんな辺境の村にあるわけない」(笑)

【マリーカ】：「一応、由緒正しい村ではあるんでしょう?」

【GM】：《パールシード》とは、女神様の遺産といわれる真珠みみたいな珠で、何でもありの力を秘めてるものです。

【マリーカ】：パールシードの説明が今更なされたぞ(笑)。はじめてやる人にとって大事な説明なのに(笑)。

【ルクレチア】：でもって、こっからオープニングの画面になるんですよ。

【マリーカ】：「そ、そんな伝説が……」っていったところで。

一同：笑

別に《パールシード》というすごいアイテムが話題にのぼるまで説明しなくてもいいかなーと思いますけれど。

まあ、タイトルの意味をあらかじめ語っておくのもありでしょう。私は実プレイに直接影響を与える概念でもないの、ここまで説明しませんでした。

【プーチン】：ムービーシーンなのでスタートボタンでスキップされちゃうんだぜ(笑)

【マリーカ】：初プレイの人がいるのでスキップできないんですよ(笑)

【GM】：というわけで、何でも強力マジックアイテムの素だそうです。

【プーチン】：一個で叶うドラゴンボール。

【マリーカ】：「何、勇者?」

【ルクレチア】：そっか、このタイミングで自己紹介だよ(笑)

【GM】：「私、ケロ助」「あたし、ケロ子いいます」というわけで、彼らは「また会うことがあったらお手やらかによろしくケロ～」と川を下っていきます。

【ラズロック】：川?

【プーチン】：行こうとするところに「一つ訊く。人

間の顔は覚えられるか?」

【GM】：「我々はもう……、ケロケロ～」と手を振って去って行く(笑)

【ルクレチア】：あっ、逃げた

【プーチン】：そうすると、あのう。「そっちが攻撃したらぶっ殺すからな」

一同：笑

【GM】：えー、誰かが奥のほうで転んだような音がします。

【マリーカ】：それじゃ、本格的に帰るか。「帰ればいいんじゃないの? この穴(D2)に行かない限り」

【プーチン】：ちなみにこの部屋(E6)の中には何かありますか?

【GM】：なんかあるよ。

【プーチン】：じゃ調べる。

【ルクレチア】：さっきの虫でしょ?

【マリーカ】：なんか他のものがあるっぽいです

【GM】：ん? 9、それはすごい。こんな感じの壺が一個。土でできてますねー。

【マリーカ】：やばい土壺だ。

【GM】：中には軟膏が入っています。サイコロ1個振ってケロ。

【プーチン】：1

【GM】：では1回分のカエルの軟膏が入ってた。これを塗ると2D6回復する。エッ、何が回復するんだっけな……ってHPね。

【プーチン】：HP以外何が……。

【マリーカ】：年齢が、とか。

【ルクレチア】：若返るか年をとるかどっちだ(笑)

【マリーカ】：13歳だから下手すると1歳になる(笑)

【プーチン】：1歳だから生きてるじゃん。

【マリーカ】：しかも精神年齢だけ退行。

【プーチン】：最悪だー

【ルクレチア】：最低だー

【GM】：それは斬新だなあ。

【プーチン】：いいな、それ。

【マリーカ】：今度出そうと。『サタスペ』とかなら出してよさそうだよ。

【ルクレチア】：精神年齢退行するけれど、知識はそのまま。めんどくさそう。

【マリーカ】：年齢表振ってくださいっていわれて振ったら、精神年齢それになったんで、って。

って、こういう美味しい材料は次にとっておこう。

……横浜のコンベンション「ほっぷ・こん!」の主催が新たなジャンル(精神退行もの)に目覚めました。近づく奴は要注意(笑)

●帰還

【GM】：洞窟を出て街に戻ると集落の人々が喜んで

くれます。「新しい勇者たちだー」

【ラズロック】：クラッカー？

【プーチン】：クラッカーみたいなのがボンボンなる。

【GM】：お菓子のクラッカーがライスシャワーを撒くような勢いでボンボンぶつけられます（笑）。

で、ネーラレインさんが「領主様もお前たちの晴れ姿を見たがってんだが、城から急の書状が来ちゃってねえ」って。

【ルクレチア】：そのネーラさんにさっき食べた芋虫をばくって喰わせてみる。

【GM】：「うおっ？！ 甘い」

【ルクレチア】：うお～、あ・ま・い・ぞー（一昔以上前のグルメ漫画登場の老人風）

【GM】：でもって、画面の端にぶつかりながら跳ね回ります。

【ルクレチア】：「これを村起こしの材料に」

【マリーカ】：それはいいんだけど、領主が云々って言ってなかった？

【GM】：何のことやら？ 今の甘さですっかり忘れてしまった。

【ルクレチア】：あれー、思い出せー。ゆさゆさ。

【マリーカ】：シナリオ進行上問題があるのでは？（笑）

【プーチン】：そういってると耳元でぼそっと「司教に報告するよ」って。

一同：笑

【GM】：「えー、城から書状が届いてね。ま、その内容に対応しているところ。それでお前らを祝いにこれぞ残念と」

【マリーカ】：「ま、私は関係ないわ。いや、祝いとかいわれても」

【GM】：次の朝まで宴が集落中で行われます。

【プーチン】：HPが回復と。

【GM】：新成人の口に酒がガンガン放り込まれます。

【プーチン】：その最中、洞窟のことを云々かんぬんと報告。

【マリーカ】：その内容

【プーチン】：見届け人だからね。「こいつら横道行っちゃって

【GM】：ネズミさんやヘイタイガエルのことも？

【プーチン】：ヘイタイガエルがいた。ネズミは「ほいっ」尻尾を渡す。

【GM】：「ドラゴン族の先兵が来ているとは」

【マリーカ】：「噂によればデーモン族も来てたみたい」

【GM】：「デーモンまで来てたとは」

【マリーカ】：「壁にドスドス撃ち込んだけど、壊れなかったんだって」

【プーチン】：「カエルがパールシード云々って言っ

てたけど」

【GM】：「まずいなあ」

【ルクレチア】：「ところで、美味しい虫があったよ～」

【マリーカ】：「もう知ってるわっ！」って言われそう（笑）

【GM】：それについてコメント返さず、ネーラレインはルクレチアの杯にワインを注ぎ込みました。

といったところで、「伝承1：ネズミ退治」はおしまいです。

おつかれさまでした。

●成長

【GM】：とりあえず、一本目の冒険が終わったんでレベルが2になります。

性格あわないじゃん、というのが他人から指摘されたら性格を変更することができます。

あと、お祝いとして皆さんに金貨3枚ずつ渡されます。

【ルクレチア】：あ～、はじめてのお金だ～

【プーチン】：ちなみに金貨1枚で……

【ルクレチア】：城が買える？

【マリーカ】：リーダー〈格好つけ〉てました？ じゃ、変えてみましょう

【ラズロック】：格好つけてなかったねえ。

【マリーカ】：おや、ラズロックの様子が……

【ラズロック】：これはもう1回振って決めればいいんですか？

【GM】：そうですね。

【マリーカ】：何に変わるかわからないそうです

【GM】：で、これがアイテム表です。これをみて物価を感じてみて。

【ルクレチア】：たけー。

【マリーカ】：ちなみに、さっき武器は交換して来ちゃったので売れないですよ。

【GM】：置いてきたんならそうだね

【プーチン】：まあ、俺は「おっと」とやっちゃったからね（笑）

【マリーカ】：あなたが落としたのはこの+1のフレイルですか、それともふつうのフレイルですか？

【プーチン】：おおっと、どれかわからないからこれでいいやあ。って。

【マリーカ】：実に〈意地汚い〉かと（笑）。

【ルクレチア】：古い短剣どうしよう？

【プーチン】：二刀流

【マリーカ】：ラズロックさん、何になりました？

【ラズロック】：〈ギャンブル好き〉。

【ルクレチア】：ギャンブルばかり。ルクレチアさんに妙なことを教えられちゃった？（笑）

【ラズロック】：〈クール〉で〈現実主義〉だけど〈ギャンブル好き〉。うーんこれはこれで正しいか。

【ルクレチア】：〈臆病〉邪魔だなあ。

【マリーカ】：よーし、それじゃ、〈臆病〉じゃなかったように見えるんですけどお（棒台詞）。ひどいお手盛りだ。

【プーチン】：〈臆病〉ってわけでもなさそうだなあ。

【ラズロック】：むしろ慎重？

【マリーカ】：じゃ、〈臆病〉変えてみませんか？ おや、ルクレチアの様子が……。

【プーチン】：〈血に飢えた〉とか？

【マリーカ】：そんな性格ありましたっけ？（笑）

【プーチン】：なかったような。

【マリーカ】：あれですね、ピンゾロだと両方●が赤いから〈血に飢えた〉にとか。（1の目が赤い●というサイコロはスタンダードですよ）

【プーチン】：1ゾロだと〈勇敢〉だね

【ルクレチア】：1の5と……〈乱暴〉だって。〈ギャンブル好き〉だけど〈乱暴〉、〈思慮深い〉けど〈乱暴〉。

【プーチン】：それ〈思慮深い〉？ ここをこうすれば……じゃっと。

【マリーカ】：破壊効率がいいな、とか。

【GM】：性格変わったら、P Cリストのほうも書き換えておいて～。あとHPもあがったので、書き写しよろしく～。

【プーチン】：倍になるな～

【マリーカ】：だいたいそうですね。

【プーチン】：なんか今回の俺たちの報酬少ないですね。〈シナリオのLV×10枚〉って。

【ルクレチア】：あれ？ そんなこと書いてあった？

【プーチン】：ルールブック32頁に。

【GM】：+1の武器を2つ出してるからその相場以上出しますよ（苦笑）

【マリーカ】：GMが「聞こえんな～」といえ、それでおしまいですし（笑）

【ルクレチア】：ん～聞こえんな～。

【GM】：去年(2010)の文華祭で、藤浪さんが「3枚くらいが相場だよ」といったのに（苦笑）。久々に遊んでルールを忘れ気味だったそうですけれど。

一同：笑

【マリーカ】：デザイナーとかマゾな人多いですから

【ラズロック】：+2ソードとかは100金貨ないといけなくらいですし。

【マリーカ】：自分も結構そういう病気なんです（苦笑）。ままならないところでがんばるのが楽しいなあって。

【ルクレチア】：前回のキャンペーンは素敵だったよね。勇者の剣。（ルール本体に含まれていたキャン

ペーンシナリオ）

【マリーカ】：なぜかシナリオアイテムと、ランダムっぽく出てきたアイテムが……。どっちに行かれても大丈夫のように準備しておいたって（笑）

【GM】：だって、呪いの武器の呪いを解くなんて想定してないよ

【ルクレチア】：だって、倒しやすい敵が無限に沸くところがあってさ。ここで6ゾロ出して呪いを解け、って感じの場所があってねー。

【GM】：はい、新しいダンジョンシート～。

【露茶】：って、僕のところに4枚も重なっていてもだめじゃん。

【ジャック】：一人で4枚書けというのか（笑）

【Rion】：書き終わったらみんなに渡すの。

【たいぺい】：それだ！

【露茶】：ほんとにこのゲームいいと思うんですよ

【たいぺい】：うん

【露茶】：サイコロ振ったら、その結果を読み上げればいいので。HPしかリソースないので、MPの心配とかなしい。ないときはほんとになにもないということ。

【たいぺい】：まあ、全部表でね、レベルが低いときふつうの判定に成功してくればね。

【露茶】：そのへんはGMがさっきいったとおり、ゲタを履かせれば。盗賊だったらできるとか。これも結構わかりやすいし、『まよキン』をもうちょっとこういう位置まで置き換えて、オブジェクト化したような。あれはちょっと自分でどういうオブジェクトか言わなきゃいけないのが、これだどこになにがという（＝右上などマス内の指示語があらかじめ決まっている）。

で結局、マリーカさんはこんな人になりました（イラストを見せてる）。ってか、この人、剣を半分抜いてるから怖い。

【たいぺい】：常に親指斬ってるの！？

【露茶】：いつでも斬れるように。

【たいぺい】：それふつう、貴族に会うときにやったら手打ちにされるよね。

【ジャック】：セッション前に『シリアス』と3回唱えるとか。

【露茶】：そういう人ほど結局できないんですよ。

【たいぺい】：それギャグだよ

トイ休憩しつつ、パールシードの素晴らしさ、蒼天の拳のバカについてなどを語りつつ、お代わりのケーキを食べて、いよいよ伝承2へ。

『霊薬は千兵を越えた』へ続く…

■イラストについて

- ・小さなモンスターカット

megu

- ・表紙、各P C カット

海石（海石工房）

<http://www.ne.jp/asahi/st/kaishi/>

書 名	：『霊薬は千兵を越えよ』 「聖珠伝説パールシード」リプレイ序章
著 者	： たまねぎ須永
発行 団体	： オニオンワークス
E-mail	： t_sunaga@tamasuna.jp
Web Site	： http://www.tamasuna.jp/onion/
初版発行	： 2011年 8月12日
分冊改版発行	： 2011年11月27日
第3刷発行	： 2012年 5月13日